

踊 舞 石 遺 跡  
蘿 師 堂 遺 跡  
白 山 I 遺 跡

Odoriishi Site

Yakushido Site

Hakusan- I Site

1989

山梨県明野村教育委員会  
峡北土地改良事務所

踊 石 遺 跡  
菜 師 堂 遺 跡  
白 山 I 遺 跡

Odoriishi Site

Yakushido Site

Hakusan-I Site

## 例　　言

1. 本書は、県営圃場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査の対象となった遺跡、調査期間、調査面積は、以下のとおりである。

築石遺跡（山梨県北巨摩郡明野村浅尾新田1844-1）

1988年5月25日～6月23日 2,835m<sup>2</sup>

薬師堂遺跡（山梨県北巨摩郡明野村浅尾463）

1988年7月1日～8月29日 1,195m<sup>2</sup>

白山I遺跡（山梨県北巨摩郡明野村浅尾新田3480）

1988年8月30日～10月15日 1,543m<sup>2</sup>

3. 本書は、付録1を会田信行氏が、その他を大森隆志が執筆した。編集は、大森が行なった。
4. 薬師堂遺跡の石器石材の鑑定は、柴田徹氏（東京都立青山高校教諭）に、また、白山I遺跡の鉱物分析は、会田信行氏（千葉県立成田園芸高校教諭）にお願いした。
5. 石器の実測は、加藤真二氏（筑波大学大学院生）の協力を得た。
6. 本文挿図中の土層説明の色調は、「新版標準土色帖」（昭和51年 小山正忠・竹原秀雄）によった。
7. 発掘調査、報告書作成にあたって次の各位には、とくに御指導、御教示を賜った。記して謝意を表する次第である。

小野正文 新津 健 保坂康夫 前田 潮 （敬称略）

8. 本調査に関する資料の一切は、明野村教育委員会に保管されている。

9. 調査にあたった組織は以下のとおりである。

調査主体者 船窪敏夫 明野村教育委員会教育長（昭63.9まで）

長田博徳 明野村教育委員会教育長（昭63.10から）

調査担当者 大森隆志 明野村教育委員会主事・文化財調査員

調査補助員 小宮山隆 筑波大学学生

中森敏晴 筑波大学学生

斎藤弘也 山梨大学学生

辻 貴久 山梨大学学生

事務局 明野村教育委員会

### 調査参加者

福田すみ江 三塙てつ子 清水恵三子 福田さつき 深沢あさ子 藤原啓子 広島智成

田島健次 宮川寛 入戸野きぬ代 入戸野フサコ 入戸野みづ子 水森広徳 福田博樹

深沢裕子　奥水辰子　望月龍也　篠原さかえ　近藤久子　清水昭子　馬場登久子  
高橋千草　清水さゆり　坂本富美子　設楽まゆみ　小泉菜美

## 本文目次

### 例言

第1章はじめに.....	1
第2章 踏石遺跡の調査	
調査の概要.....	7
第3章 薬師堂遺跡の調査	
第1節 繩文時代の調査.....	13
第1項 繩文時代の遺構.....	13
第2項 繩文時代の遺物.....	14
第2節 平安時代の調査.....	34
第1項 住居址とその出土遺物.....	34
第3項 時期不明の遺構.....	36
第4章 白山I遺跡の調査	
第1節 調査の概要.....	43
第1項 層序.....	43
第2項 遺構.....	44
第3項 遺物.....	44
参考文献.....	45
付編1 白山I遺跡の砂粒組成・重鉱物組成.....	46
付編2 明野村内遺跡分布図	

## 付表目次

Tab. 1 器種別石器数 .....	22	Tab. 4 石器と石材（百分率） .....	24
Tab. 2 遺構別石器数 .....	23	Tab. 5 石器表 .....	25
Tab. 3 石器と石材（グラフ） .....	24	Tab. 6 石器表 .....	26
		Tab. 7 明野村遺跡地名表 .....	51

## 挿図目次

Fig. 1 遺跡の位置	1	Fig. 17 石器（石組周辺）	29
Fig. 2 踏石遺跡調査範囲	5	Fig. 18 石器（1号住居址・遺構外）	30
Fig. 3 踏石遺跡遺構配置図	6	Fig. 19 石器（1号住居址・遺構外）	31
Fig. 4 土坑	7	Fig. 20 石器（遺構外）	32
Fig. 5 薬師堂遺跡調査範囲	11	Fig. 21 石器（遺構外）	33
Fig. 6 薬師堂遺跡遺構配置図	折り込み	Fig. 22 石器（1号住居址）	34
Fig. 7 石組	13	Fig. 23 1号住居址	35
Fig. 8 石組と周辺出土遺物	13	Fig. 24 1号住居址カマド	35
Fig. 9 土坑・焼土	14	Fig. 25 1号住居址出土土器	37
Fig. 10 繩文土器(1)	16	Fig. 26 ピット群	38
Fig. 11 繩文土器(2)	17	Fig. 27 白山I遺跡調査範囲	41
Fig. 12 繩文土器(3)	18	Fig. 28 白山I遺跡遺構配置図	折り込み
Fig. 13 繩文土器(4)	19	Fig. 29 層序	43
Fig. 14 繩文土器(5)	20	Fig. 30 土坑	44
Fig. 15 繩文土器(6)	21	Fig. 31 分析試料採取位置	49
Fig. 16 石器（石組周辺・1号土坑）	28	Fig. 32 分析試料砂粒組成と重鉱物組成	50
		Fig. 33 明野村内遺跡分布図	折り込み

## 写真図版目次

PL. 1 遺跡の位置	PL. 11 繩文土器(7)・(8)
PL. 2 踏石遺跡遠景・1号土坑	PL. 12 繩文土器(9)
PL. 3 薬師堂遺跡遠景・調査風景	PL. 13 把手・打製石斧刃部使用痕
PL. 4 石組と周辺の土器	PL. 14 石器(1)・(2)
PL. 5 ピット群・焼土・土坑	PL. 15 石器(3)・(4)
PL. 6 土器出土状況	PL. 16 石器(5)・(6)
PL. 7 土器出土状況	PL. 17 1号住居址・土器出土状況
PL. 8 繩文土器(1)・(2)	PL. 18 1号住居址出土遺物
PL. 9 繩文土器(3)・(4)	PL. 19 白山I遺跡遠景・土坑
PL. 10 繩文土器(5)・(6)	PL. 20 深掘りセクション・出土石器

## 第1章 はじめに

1988年度県営圃場整備事業（明野浅尾地区）にともない、明野村教育委員会では、事業予定地区において1987年12月に埋蔵文化財確認調査を行なった。その結果、礫石遺跡・薬師堂遺跡・白山I遺跡が確認された。これらの遺跡については、峠北土地改良事務所と協議を行ない、圃場整備事業に先立って発掘調査を実施し記録保存することとした。

発掘調査は、1988年5月から10月まで行ない、引き続き整理と報告書の作成を行なった。



Fig.1 遺跡の位置（1：礫石、2：薬師堂、3：白山I）



## 第2章 踊石遺跡の調査



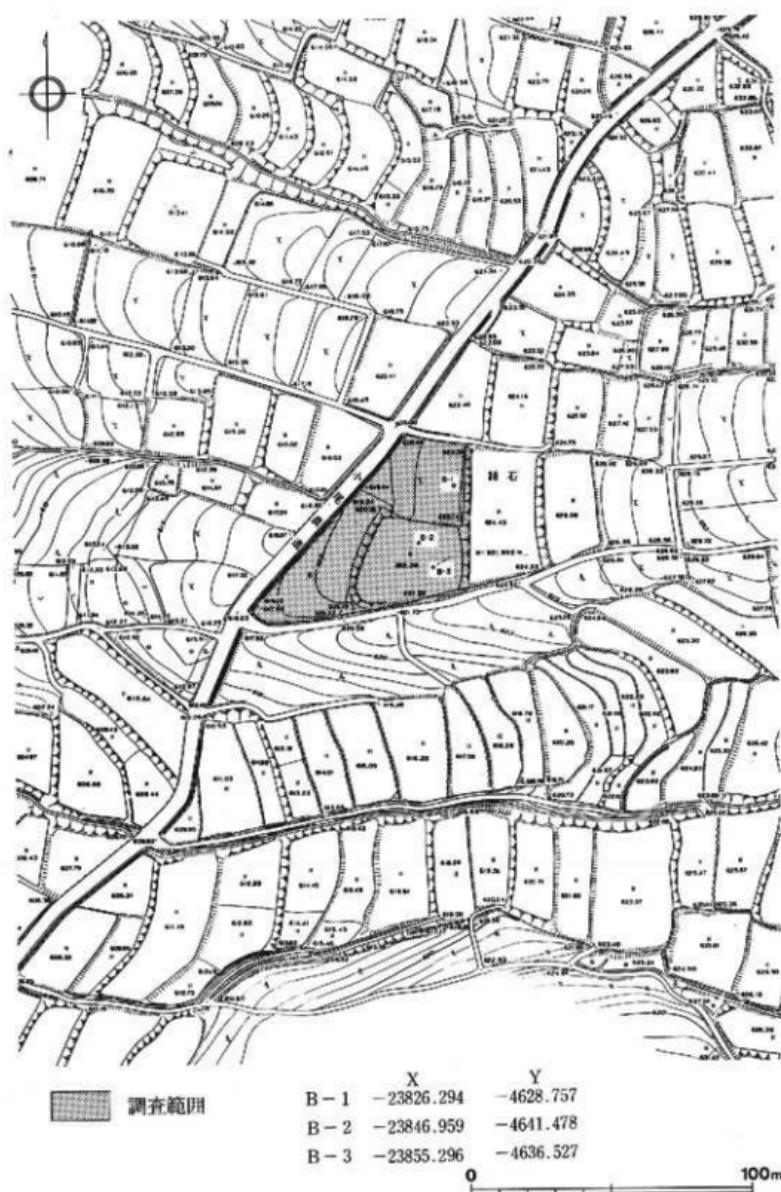


Fig.2 跳石遺跡調査範囲 ( $\frac{1}{2000}$ ) (XとYは第Ⅳ系の座標値)

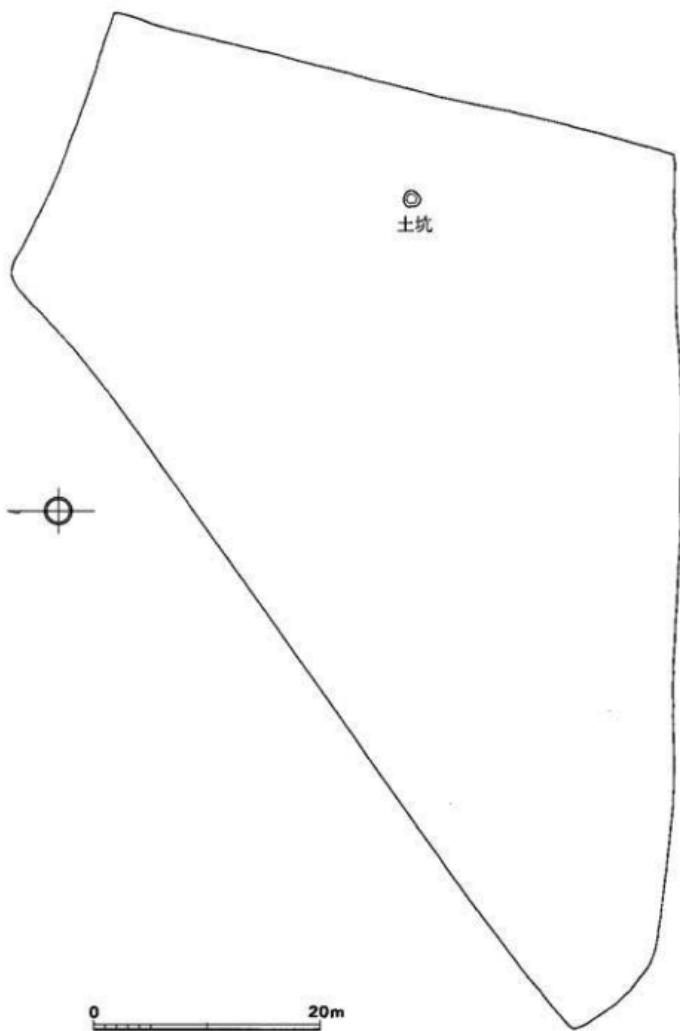


Fig.3 路石遺跡遺構配置図

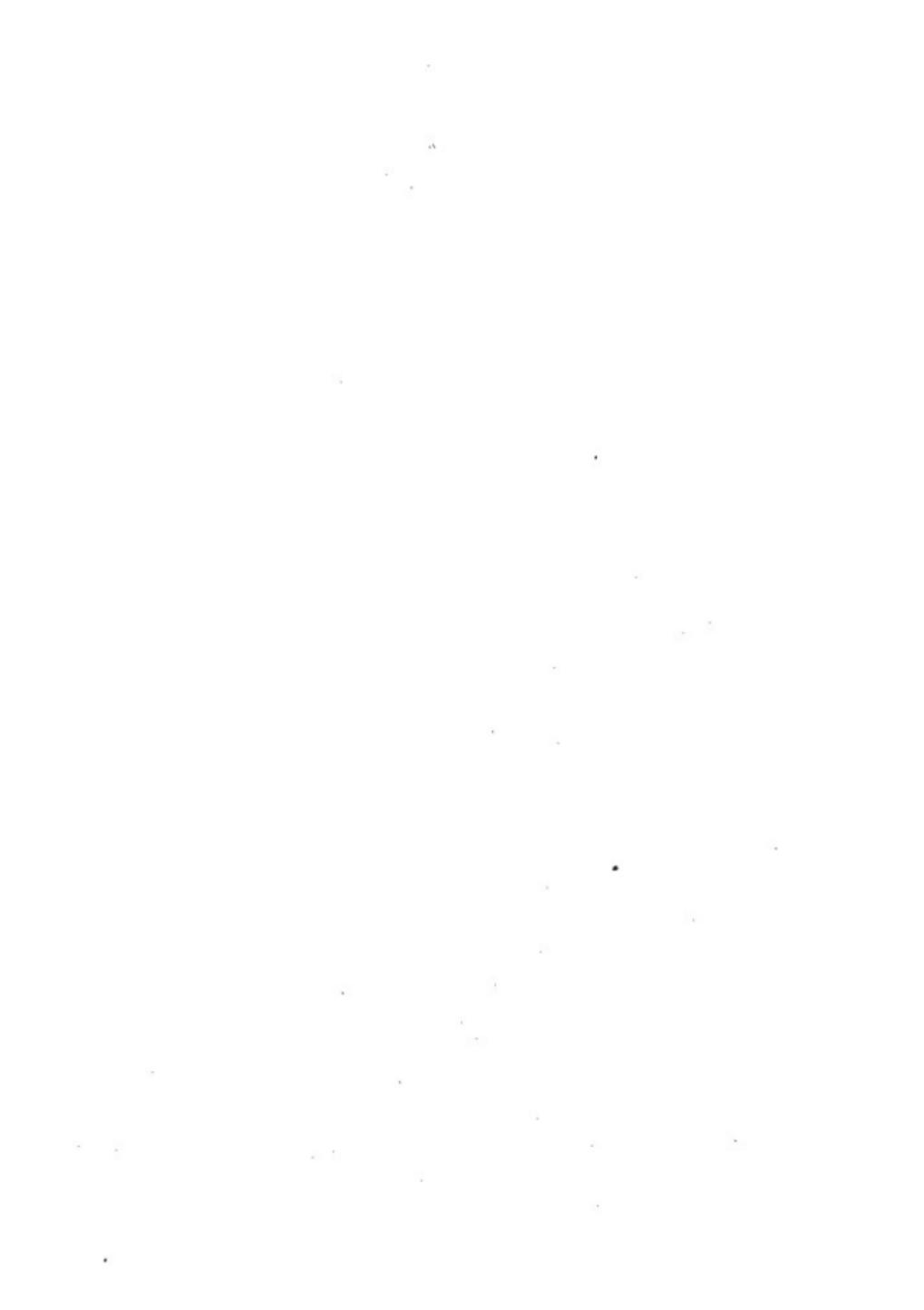
## 調査の概要

約2,800m<sup>2</sup>を調査対象とした結果、土坑1基を発見した。遺物の発見は、なかった。

土坑は、長径約140cm、短径約130cm、深さ約50cmである。土層は、分層不可能で、暗褐色を呈する。土坑の時代・時期等は、伴出遺物がないので不明である。



Fig.4 土坑



### 第3章 薬師堂遺跡の調査



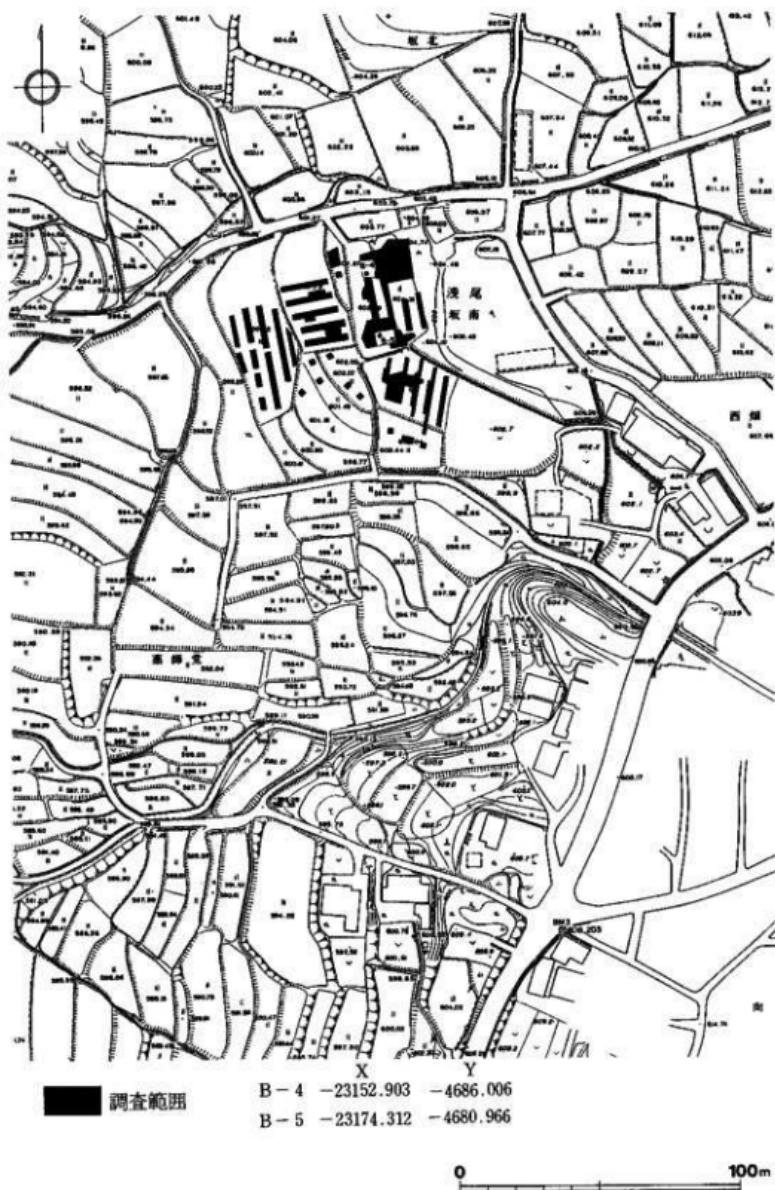


Fig.5 薬師堂遺跡調査範囲 (1/200) (XとYは第7系の座標値)

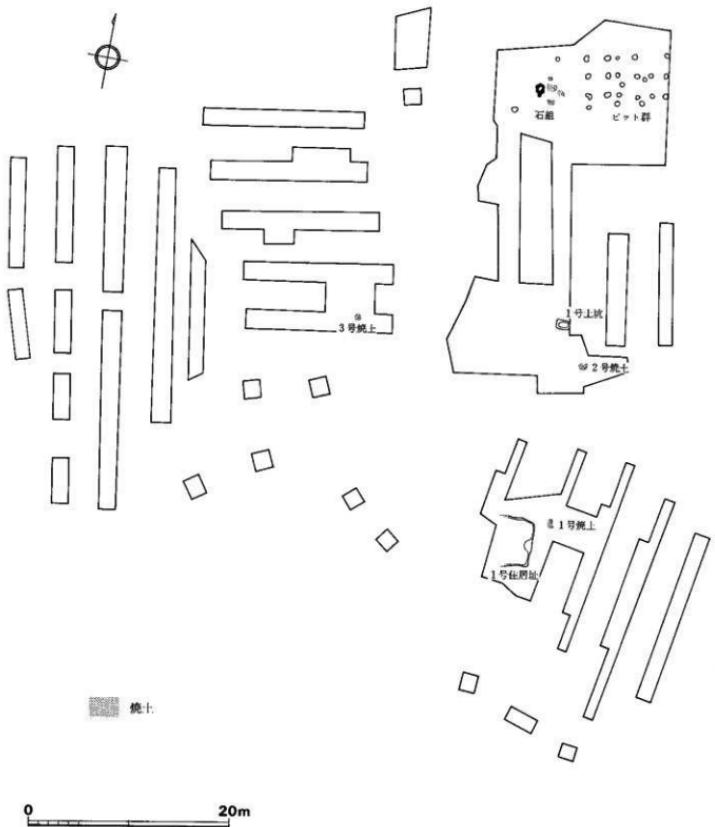


Fig. 6 神宮寺堂遺跡遺構配置図 ( $S = \frac{1}{400}$ )

## 第1節 繩文時代の調査

### 第1項 繩文時代の遺構

石組 (Fig. 7・8, PL. 4)

長径約80cm、短径約70cm、の梢円形に大きい砾や磨石を組み合わせている。石組の石や、中の土は、焼けていない。焼土は石組の東側に、大小あわせて6ヶ所発見された。

調査当初、住居址に付随する施設と考えたが、柱穴・周溝など住居址と断定する材料の発見は、なかった。

石組を中心にして約250cmの範囲から多くの土器・石器が出土したが、出土土器の時期は、諸説C式～井戸尻式にわたるため詳細な時期の把握はできない。縄文時代前期末～中期としておく。

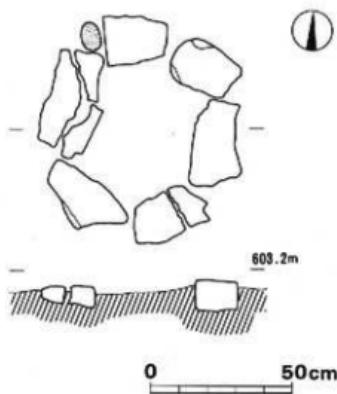


Fig. 7 石組 (S = 1/6)

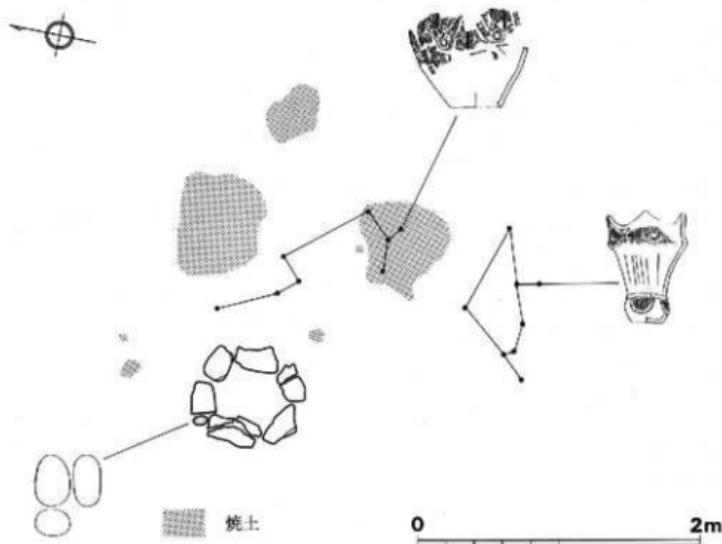


Fig. 8 石組と周辺出土遺物 (S = 1/6)

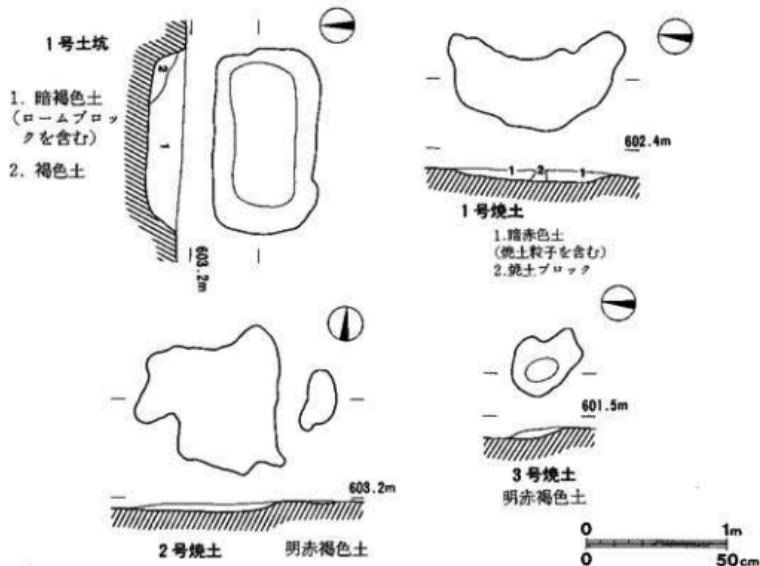


Fig. 9 土坑・焼土

### 1号土坑 (Fig. 9, PL. 5-5)

長辺約135cm、短辺約75cm、で隅円長方形を呈し、深さは、約25cmである。出土遺物は、縄文時代の土器片（無文）が8点。ビエスエスキュー（Fig. 16-7）1点。剝片1点。時期は、出土遺物より、縄文時代としたい。

### 第2項 縄文時代の遺物

#### 土器 (Fig. 10~15, PL. 6~13)

##### 前期の土器

1~5. 石組周辺出土。いずれも諸磯C式。

1：条線地に円形浮文。半裁竹管の刺突文を有する隆帯が口縁から垂下する。口縁部破片。

2：条線地に円形浮文。口縁部破片。3：隆帯上に半裁竹管の刺突文。4：条線地に円形浮文。

底部破片。5：条線

##### 中期の土器

##### 猪沢式土器

6：石組周辺出土。角押し文。9と同一固体。8：角押し文と円形浮文。10、11と同一固体。9：石組周辺出土。角押し文。10：角押し文。表面の摩耗が著しいがわずかに角押し文がみえる。11：角押し文と円形浮文。

#### 新道式土器

12：角押し文と三角押し文。

#### 井戸尻式土器

13：区画文の中に沈線を施す。14：沈線と縄文（原体 RL）。15：沈線。16：沈線。隆帯にて渦巻状の文様を施す。17・18：隆帯で区画された中に沈線を施す。19・20：沈線。隆帯上には、「ハ」の字状の刻目を有する。21：隆帯で区画された中に3列の角押し文を施す。22：石組周辺出土。口縁部に刻目を有する隆帯をめぐらす。23・24：隆帯上に刻目。隆帯間に沈線。25：隆帯と沈線。26：半肉彫りで施文する。27：刻目を有する隆帯で器面を区画する。区画内は、無文のところと沈線でうめるところがある。28：石組周辺出土。器形は浅鉢。口縁部に橢円形の貼り付け文をめぐらす。29：口唇部から断面三角形の隆帯を垂下する。縄文原体は RL。30：刻目を有する隆帯。31～33：同一個体。指頭圧痕を有する隆帯。34：幅広の隆帯の間に沈線を施す。35：幅広の隆帯と沈線。36：ゆるやかな波状口縁を呈する。「十」字状の文様がある。37～40：刻目を有する隆帯と半肉彫りの施文。41・42：同一個体。刻目を有する隆帯。一部、隆帯にそって三角押し文が配されている。43：刻目を有する隆帯。44：刻目を有する隆帯。撲糸文。45：隆帯。縄文（原体 LR）。46：縄文（原体 RL）。47：隆帯。縄文原体は LR。48：縄文原体は RL。49・50：同一個体。石組周辺出土。撲糸文。53：口縁部は、無文。突起を1つ有する。胴上部は、三角形と円形を基本とした区画で構成し、胴下半分は、橢円形の区画を配する。それぞれの区画内を平行沈線文や三叉文・十字文などうめる。1個体が単独でつぶれた状態で出土した。

54：石組周辺出土。半肉彫りの三叉文、うずまき文、及び、平行沈線をあまり規則性をもたず配する。隆帯上には、刻目がある。55：石組周辺出土。縄文原体は、RL。口唇部から幅広で低い隆帯を垂下させる。隆帯上には、刻目がある。56：石組周辺出土。4単位の波状口縁を呈する。文様は、口縁部と胴下半分に限られる。口縁部は隆帯で区画された中に沈線を施すところと、そうでないところがある。胴下半分には櫛形文を施す。57：口頸部に低い隆帯をめぐらせ、底部へ4本隆帯を垂下させる。地文は刺突文。58：頸部は庇状の隆帯から隆帯を垂下させ、その隆帯間に沈線（直線やうずまき）を施す。口縁部には図示したような突起をもつ。59：屈曲底を呈する土器の下半部。庇状の隆帯から低い隆帯を垂下させる。櫛形文を配す。

以上、拓本や実測図で示されたものその他に、写真で示した資料（PL. 11・13）について簡単に説明しよう。PL. 11-1～4：井戸尻式。いずれも庇状の隆帯から刻目を有する隆帯を垂下させる。器面には、沈線を配する。3は石組周辺出土。PL. 13(上)～1～3：いずれも井戸尻式土器の把手である。1・3：ヘビの文様。2：上部に猪を配し下部にヘビを2匹配する。

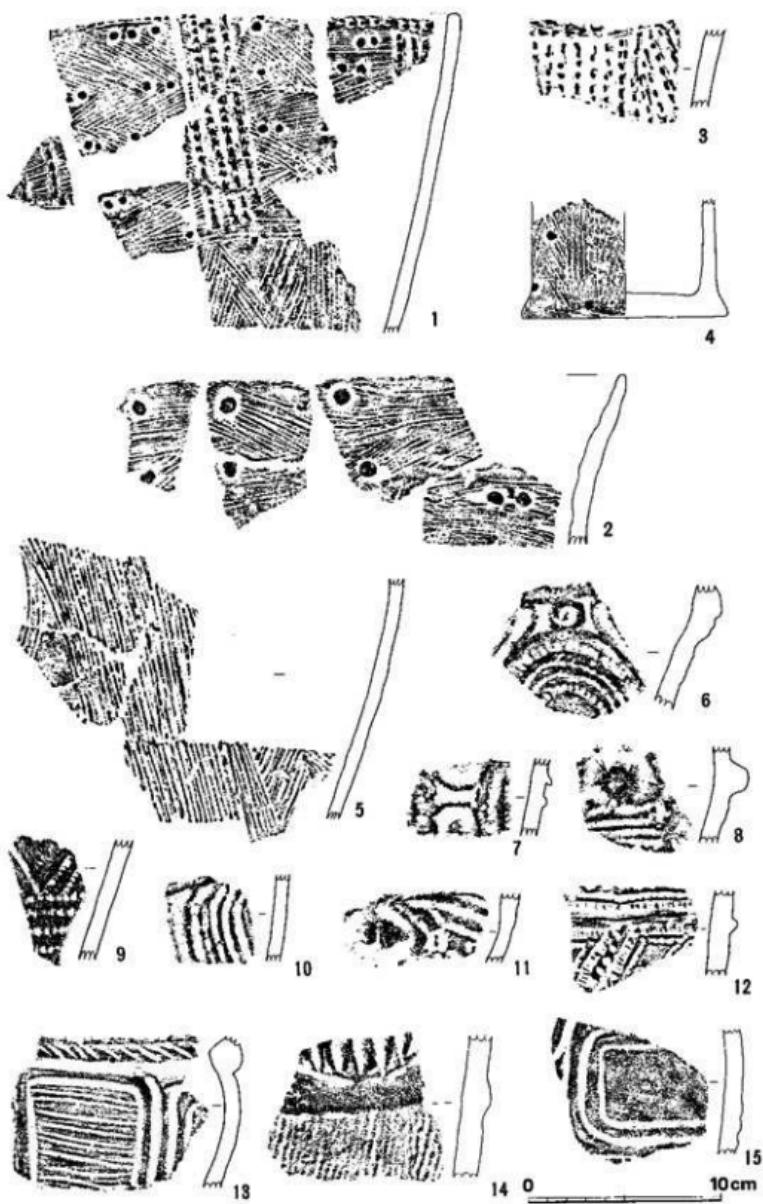


Fig. 10 繩文土器(1)

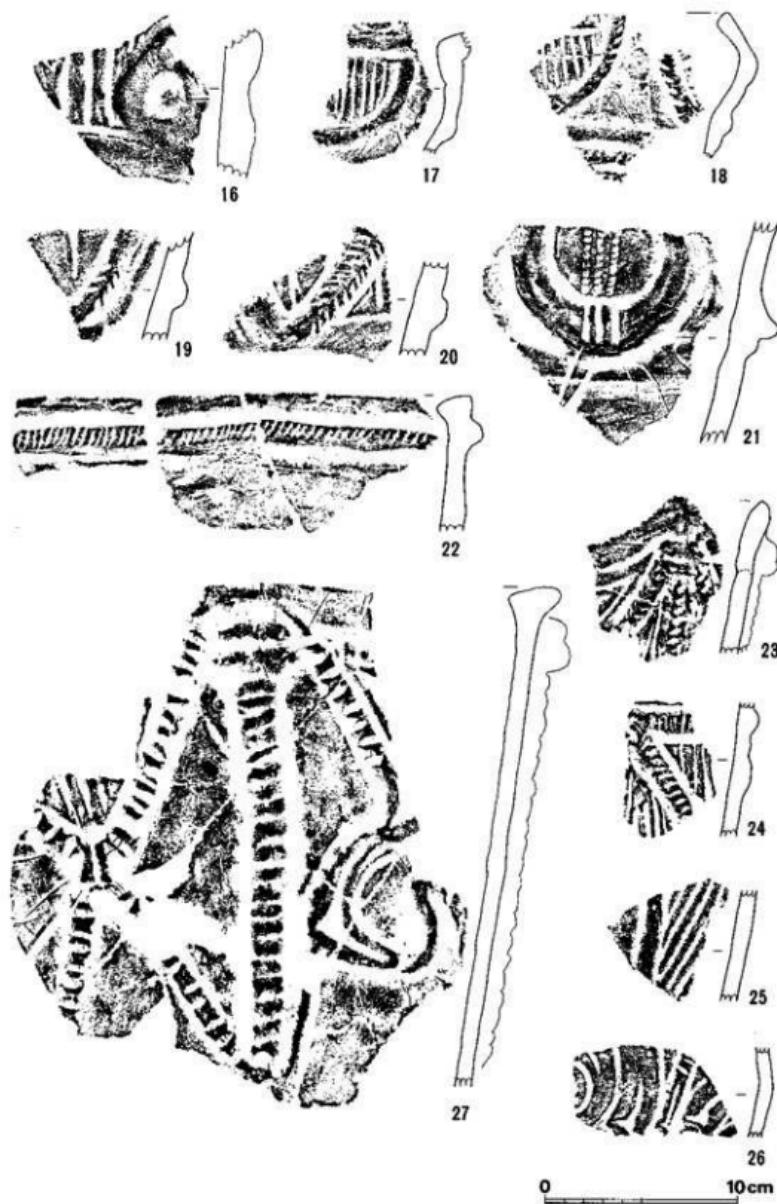


Fig.11 調文土器(2)

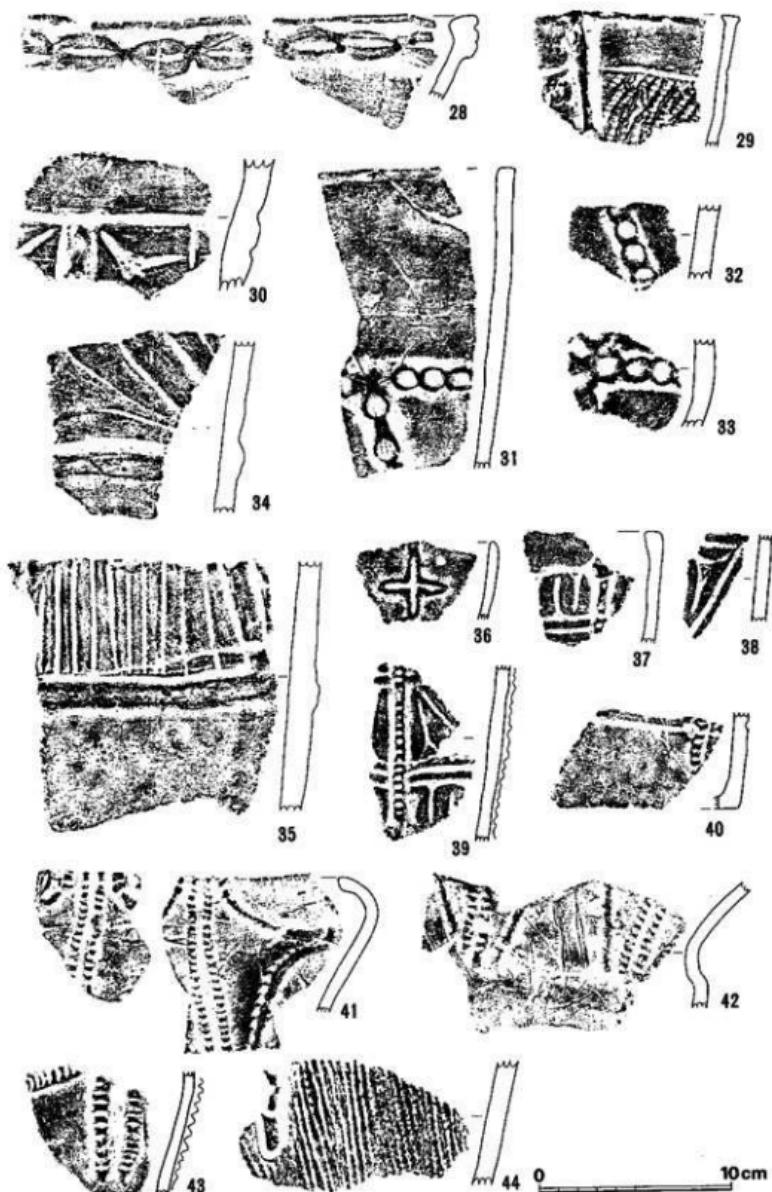


Fig.12 繩文土器(3)

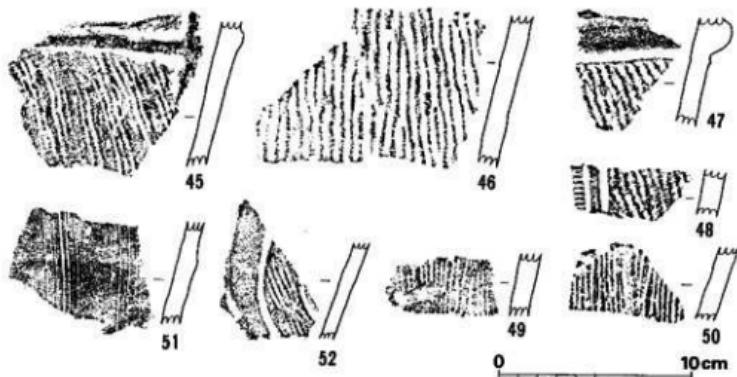


Fig.13 繩文土器(4)

#### 曾利式土器

51：櫛齒状工具による条線

#### 後期の土器

#### 称名寺式土器

52：石組周辺出土。磨消繩文。繩文原体は摩耗していて不明。

#### 石器 (Fig. 16~22 PL. 13~16)

石器は剝片等も含めて633点出土した。全て縄文時代に属するものと考える。1号住居址(平安時代)出土の石器も形態等から判断して縄文時代のものとした。多くの中から主なものを図示し、また、個々の説明等は、表にまとめたので参照していただきたい (Tab. 3・4)。

#### 刃部に使用痕がある打製石斧について

石組周辺から (Fig. 16-15, PL. 13(下)-1) と遺構外 (Fig. 19-22 PL. 13(下)-2) から出土した打製石斧の刃部に使用痕(線状痕)が観察された。Fig. 16-15は、表面には広い範囲に打製石斧の主軸と平行する線状痕があり、裏面にも若干同様の線状痕がある。Fig. 19-22は、表面に打製石斧の主軸と平行する線状痕がみられる。この様な線状痕のありかたは、刃に対して直角に加えられる力によって生じたものと思われる。また、この2点の線状痕は、主軸と平行するものであるが、セミヨーノフの論文 (セミヨーノフ・抄訳 田中 1968) によると、土を対象とした場合には、長く一定の方向をもたず交錯した線状痕になるという。おそらく、石器が使われた土壤の質によって変化するのだろう。

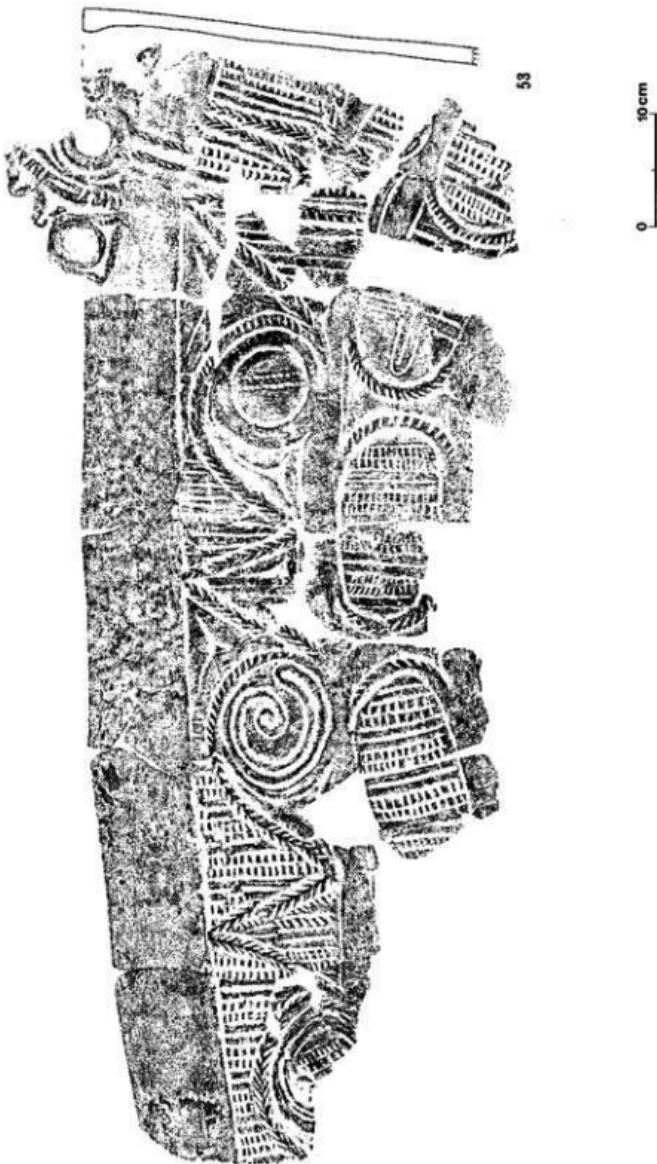


Fig.14 纹文土器(5)

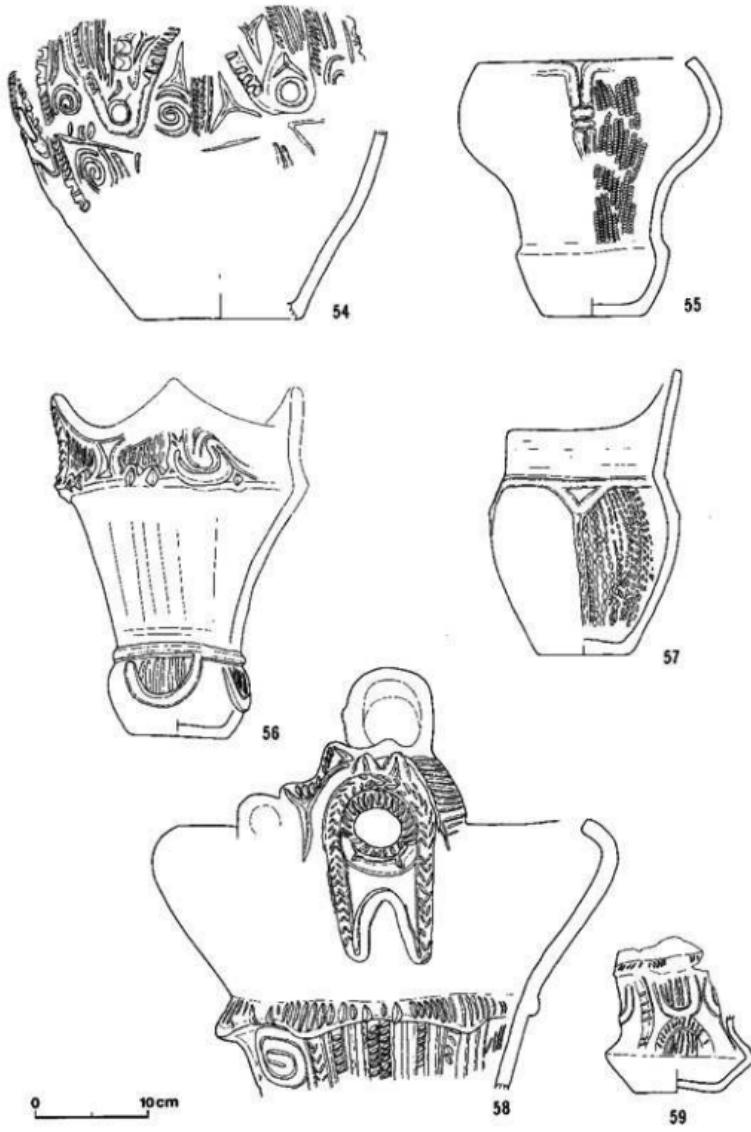


Fig.15 調文土器(6)

石 材 器 種 類	石 材 總 数	黒 曜 石	ホ エ ル ン ス	頁 岩	水 晶	メ ノ ウ	安 山 岩	閃 綠 岩	凝 灰 岩	角 閃 石	チ ヤ ー ト	砂 岩	不 明
打製石斧	38		24	10						1		3	
石 鐵	17	17											
石 逃	2		1	1									
搔 器	1	1											
スクレイパー	4	3									1		
石 鑿	1	1											
ビエス エスキュー	3	3											
石 植	3	3											
使用痕ある 片	24	21		2							1		
加工痕ある 剥 片	8	7									1		
ノブ チド フレイク	1	1											
剥 片	503	439	6	10	6	2					15	14	11
崩製石斧	1									1			
磨 器	1		1										
磨石・凹石	1						1						
凹 石	9						9						
磨 石	7						6	1					
そ の 他	9	2	1	2	1								3
	633	498	33	25	7	2	16	1	1	1	18	17	14

Tab. 1 器種別石器数

	石 材 器 種 類	石 材 器 總 數	黒 曜 石	チ ヤ ー ト	水 晶	頁 岩	砂 岩	フ ホ ル ル ン ス	安 山 岩	凝 灰 岩	不 明
1 号 住	打製石斧	2				1		1			
	石 錐	1	1								
	ピエス エスキュー	2	2								
	石 棱	2	1			1					
	凹 石	1							1		
	スクレイバー	1		1							
	剥 片	32	27	2	1	1	1				
	そ の 他	1	1								
計		42	32	3	1	3	1	1	1		
石 組 周 辺	打製石斧	5					2	3			
	石 錐	8	8								
	石 鑿	1	1								
	スクレイバー	3	3								
	使用旗ある 剥 片	12	11			1					
	加工旗ある 剥 片	5	5								
	礫 器	1					1				
	磨 製 石 斧	1							1		
計		300	272	1		5	8	4	8	1	1
1 号 土 坑	ピエス エスキュー	1	1								
	剥 片	1		1							
	計	2	1	1							
1 号 焼	剥 片	2	2								
	計	2	2								

Tab. 2 造構別石器数

		黒曜石										ホルンフェル										合計									
		リリ					リリ					リリ					リリ					リリ									
打製	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器				
黒曜石	%	0.0	1.7	0.0	1.0	3	1	3	21	7	1.4	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	49.8								
ホルンフェル	%	24	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
頁岩	%	40.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
安山岩	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
チャート	%	0.0	0.0	0.0	0.0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
砂岩	%	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
合	計	38	1.7	2	1	4	1	3	3	24	8	1.503	1	1	1	9	7	9	63.3												
		6.0	2.7	0.3	0.2	0.6	0.2	0.5	1.3	0.2	79.5	0.2	0.2	0.2	1.4	1.1	1.4	1.1	1.4												

上. Tab.3 石器と石材（グラフ）

下. Tab.4 石器と石材（百分率）

番号	器種	出土地点	石 材	重さ(g)	観察その他
1	石 錬	石組周辺	黒曜石	(1.6)	左脚部欠損
2	石 錬	石組周辺	黒曜石	0.4	
3	石 錬	石組周辺	黒曜石	1	
4	石 錬	石組周辺	黒曜石	(0.3)	胴部欠損
5	石 錬	石組周辺	黒曜石	(0.4)	左脚部欠損
6	石 錬	石組周辺	黒曜石	(0.6)	錐部欠損
7	ピエス エスキュー	1号土坑	黒曜石	1.5	
8	スクレイバー	石組周辺	黒曜石	5.6	
9	スクレイバー	石組周辺	黒曜石	1.5	
10	スクレイバー	石組周辺	黒曜石	2.1	
11	剝片	石組周辺	黒曜石	1.3	加工痕ある剝片
12	磨製石斧	石組	凝灰岩	141	石組の直下から出土。斜刃を呈す。
13	打製石斧	石組周辺	砂岩	125	
14	打製石斧	石組周辺	砂岩	80	
15	打製石斧	石組周辺	ホレンフェルス	187	表裏に使用痕あり。
16	疊器	石組周辺	ホレンフェルス	265	片刃。
17	磨石	石組周辺	安山岩	41	
18	磨石	石組周辺	安山岩	623	全体によく磨られている。
19	凹石	石組	安山岩	355	石組の石の直下から出土。
20	磨石・凹石	石組周辺	安山岩	495	表裏ともよく磨られている。
21	凹石	石組周辺	安山岩	537	
22	凹石	石組周辺	安山岩	487	5ヶ所凹部あり
23	磨石	石組周辺	安山岩	1030	腐耗によって稜ができる。

Tab. 5 石器表 (番号は、Fig. 16, 17の番号と一致する)

番号	器種	出土地点	石材	重さ(g)	観察その他
1	石鎌	1号住	黒曜石	0.7	
2	石鎌	遺構外	黒曜石	1.5	
3	石鎌	遺構外	黒曜石	(1.1)	脚部欠損
4	石鎌	遺構外	黒曜石	0.4	
5	石鎌	遺構外	黒曜石	(0.9)	左脚部欠損
6	石鎌	遺構外	黒曜石	1.6	
7	石鎌	遺構外	黒曜石	(1.2)	左脚部欠損
8	スクレイパー	1号住	チャート	4	
9	搔器	遺構外	黒曜石	6.7	厚い剝片の一端に純角なスクレイパーエッヂを有す。
10	ノッチドフレイク	遺構外	黒曜石	0.8	
11	剝片	遺構外	チャート	53	
12	ピエス エスキュー	1号住	黒曜石	3.7	
13	ピエス エスキュー	1号住	黒曜石	3.5	
14	大型粗製 石匙	遺構外	頁岩	35	
15	大型粗製 石匙	遺構外	ホルンフェルス	68	
16	剝片	遺構外	砂岩	58	
17	剝片	遺構外	頁岩	50	
18	剝片	1号住	砂岩	115	床直出土。
19	打製石斧	1号住	頁岩	97	床直出土。
20	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	165	
21	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	288	
22	打製石斧	遺構外	頁岩	170	使用痕あり。
23	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	68	産地は小仏系。
24	打製石斧	遺構外	角閃岩	73	正面圓上部は研磨されている。
25	打製石斧	遺構外	頁岩	80	
26	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	(156)	産地は小仏系。
27	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	(130)	
28	打製石斧	遺構外	砂岩	167	
29	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	85	
30	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	100	産地は小仏系。
31	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	(93)	
32	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	66	自然面を有す。

Tab. 6~1 石器表 (番号は、Fig. 18~22の番号と一致する)

番号	器種	出土地点	石 材	重き(g)	観察その他の
33	打製石斧	遺構外	ホルンフェルス	100	
34	磨 石	遺構外	安山岩	641	
35	磨 石	遺構外	安山岩	925	
36	凹 石	遺構外	安山岩	738	
37	磨 石	遺構外	安山岩	455	
38	凹 石	遺構外	安山岩	380	
39	凹 石	遺構外	安山岩	481	
40	凹 石	遺構外	安山岩	256	表面が全体に浅く凹む。
41	凹 石	遺構外	安山岩	368	
42	磨 石	遺構外	閃綠岩	1050	
43	凹 石	1号住	安山岩	930	床直出土。5ヶ所凹部あり。

Tab. 6~2 石器表 (番号は、Fig. 18~22の番号と一致する)

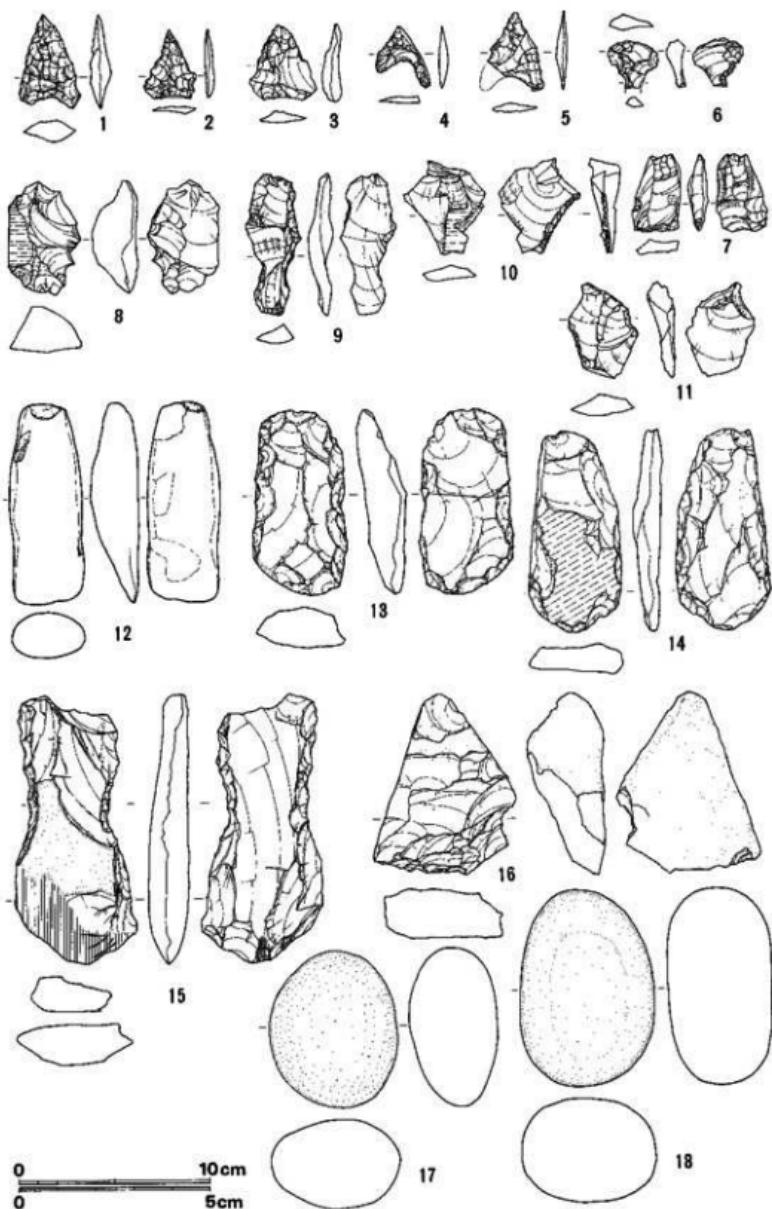


Fig.16 石器 (石組周辺・1号土坑) S=1/2, 3/4 (1~11, 17)

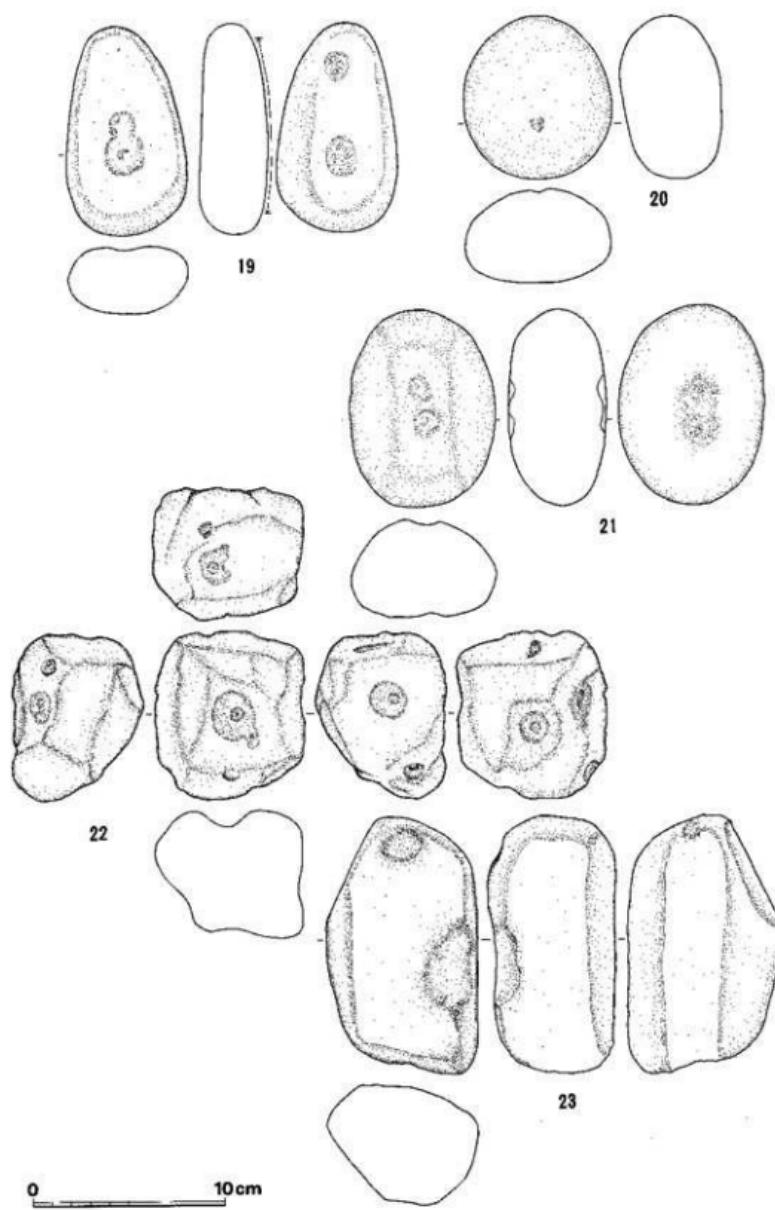


Fig.17 石器（石組周辺）S = 1/4

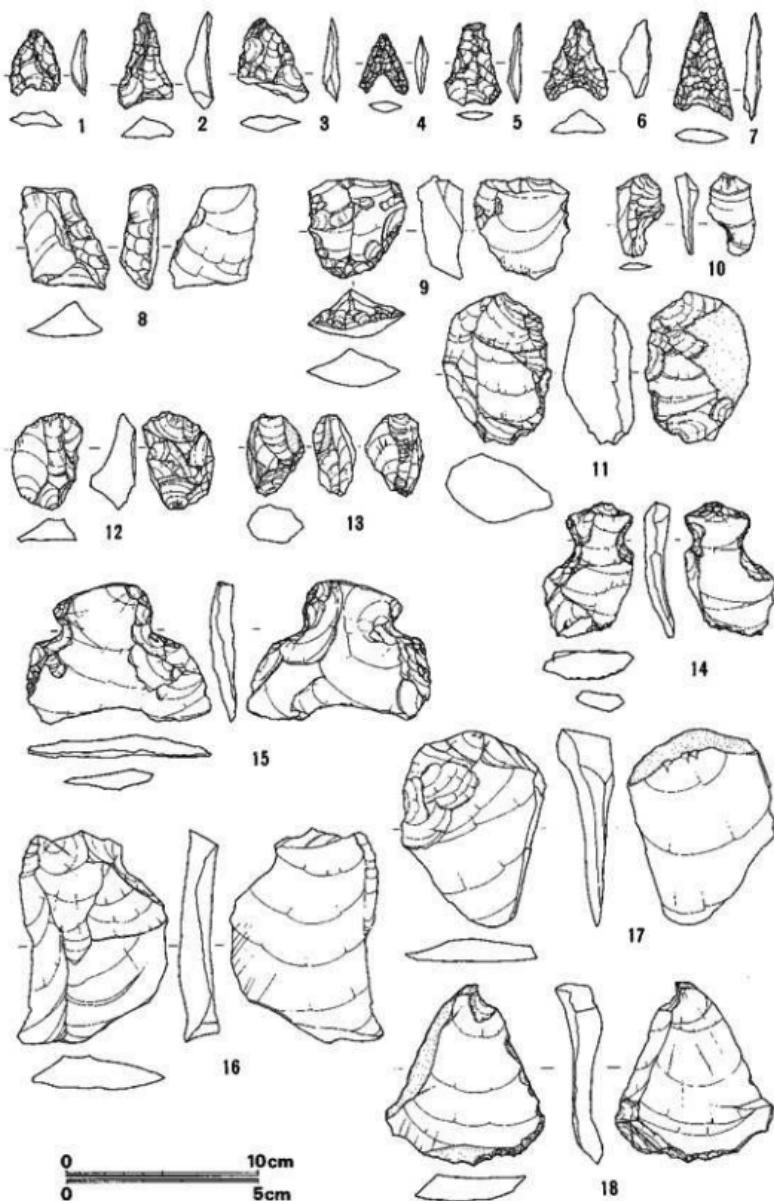


Fig.18 石器（1号住居址・遺構外）S=1/2, N=13 (1~13)



19



20



21



22



23



24



24



25



26



27



0

10cm

Fig.19 石器（1号住居址・造構外）S=1/2

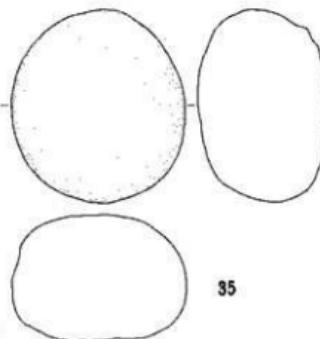
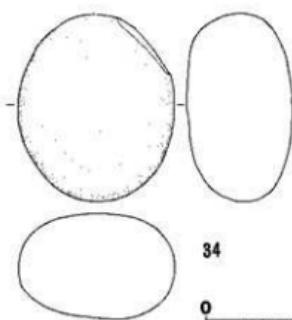
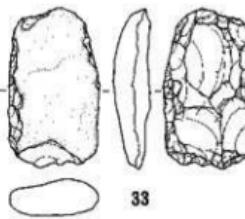
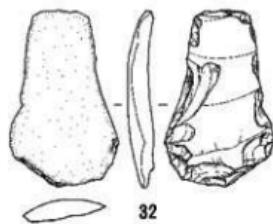
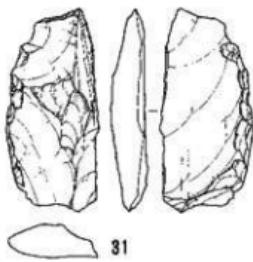
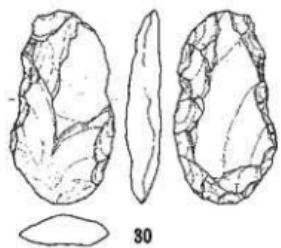
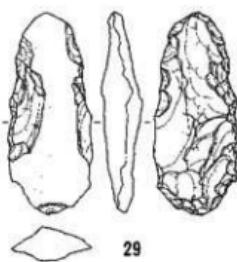
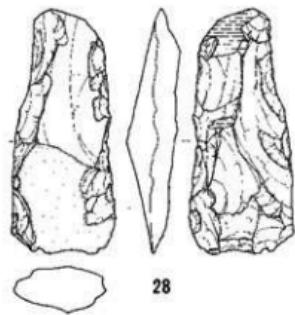


Fig. 20 石器 (造形外) S = ½

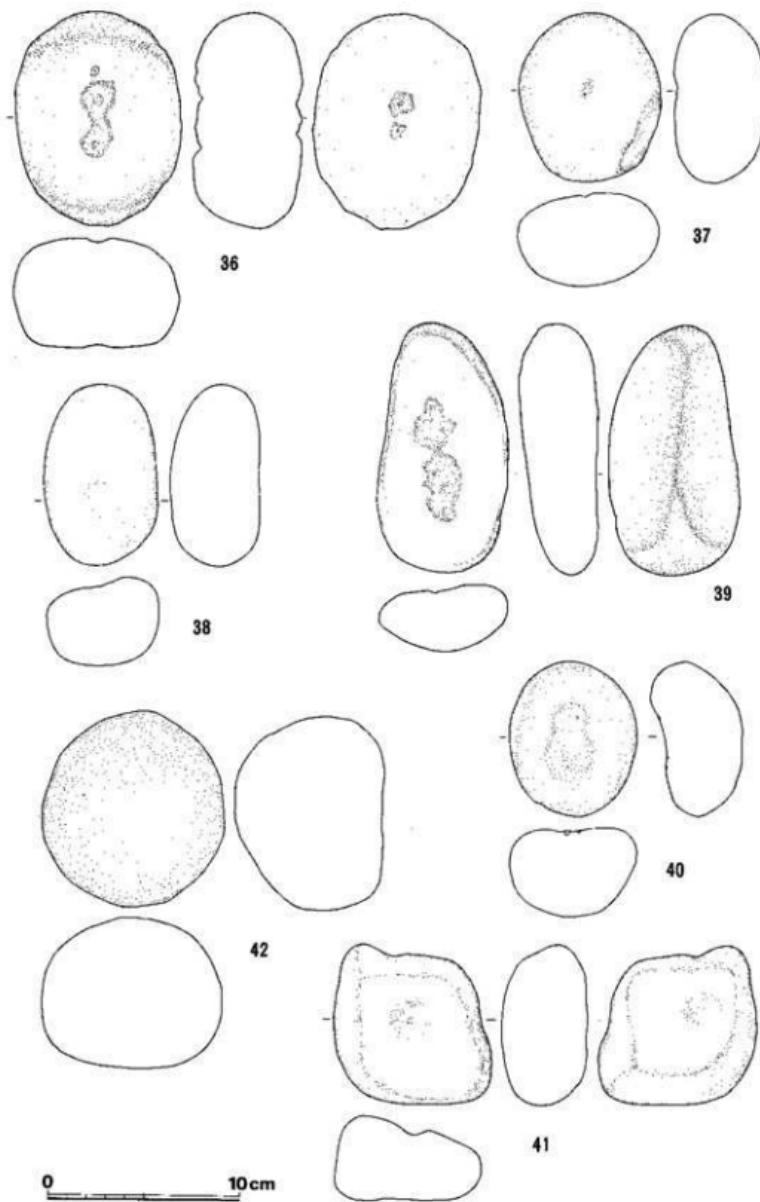


Fig.21 石器 (遺構外) S = ½

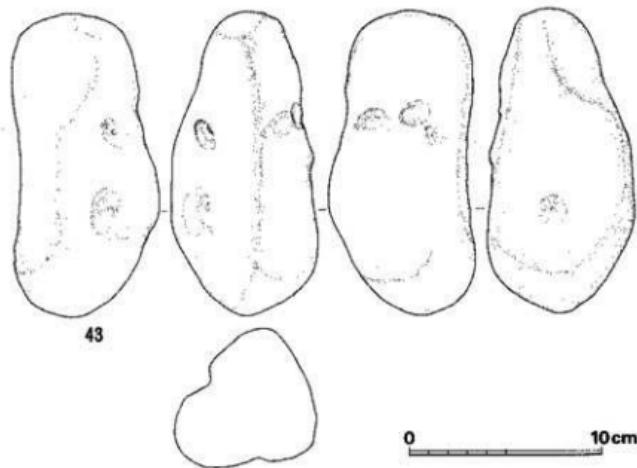


Fig.22 石器（1号住居址）S=1/2

## 第2節 平安時代の調査

### 第1項 住居址とその出土遺物

#### 1号住居址 (Fig. 23・24, PL. 17)

**形状・規模** 住居址西側は、削平によって失われているが、方形プランを呈していたと思われる。現状の規模は、南北約5m 東西約3.8m。

**カマド** 新・古・2つのカマドを確認した。東壁中央に石組のカマド（新）を有し、その西側にカマド（古）がある。カマド（古）は、若干のくぼみと燃焼部を残すのみであった。

**床面** 特に固くなっているところはなかった。2カ所焼けているところがあった。また、セクションポイントa付近も小規模に焼けていた。

**その他の施設** ピットを4つ発見した。そのうち、P<sub>1</sub>とP<sub>3</sub>から土器が出土した。P<sub>1</sub>からは、壺が3個体まとめて出土した (Fig. 25-1~3, PL. 17)。また、P<sub>3</sub>から Fig. 25-5 の壺が出土した。4つのピットは、規模、形態などから判断して、柱穴とは考えがたい。

#### 出土遺物 (Fig. 25, PL. 18)

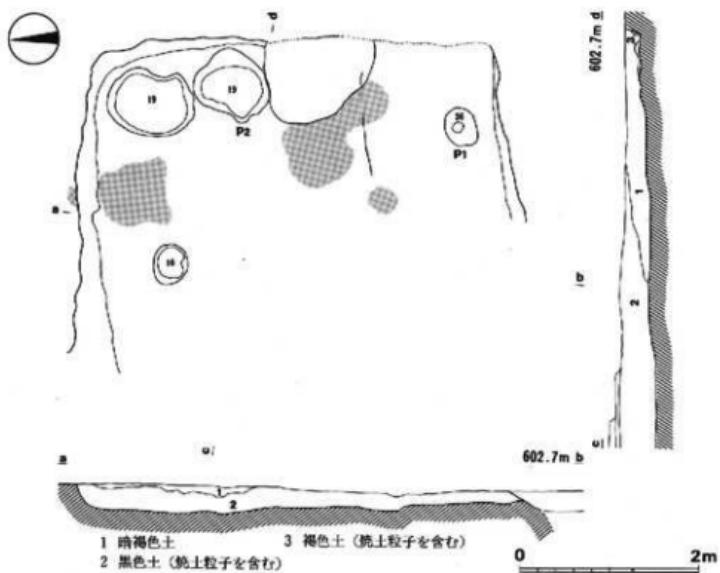


Fig.23 1号住居址 ( $S = 1\%$ )

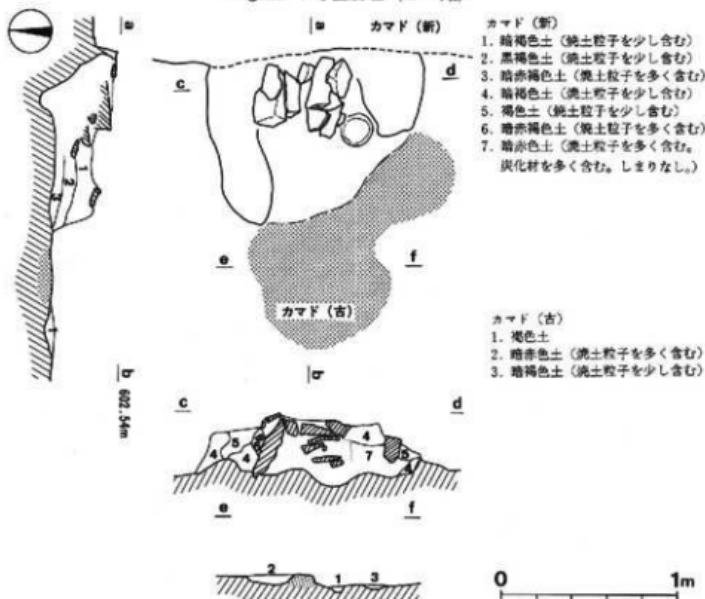


Fig.24 1号住居址 カマド ( $S = 1\%$ )

1～3：杯。ビットI内出土。内面黒色。内・外面ともナデ調整。4：杯。カマド（新）周辺出土。内部、部分的に黒色。内・外面ともナデ調整。5：ビット2内出土。内面黒褐色。内面ナデ調整、外面は、下半分は、ヘラ削り、他はナデ調整。底部にわずかに糸切り痕がみえる。6：須恵器。クリーントーン部に釉がかかる。7：須恵器。底部に圧痕あり。8：須恵器。カマド（新）出土。他に、3点鉄製品の破片が出土した。そのうち1点を写真図版PL.18-9で示した。  
時期 出土遺物から、10世紀と思われる。

### 第3節 時期不明の遺構

#### 焼土 (Fig. 9, PL. 5-2～4)

1号焼土 形態は、アーメバー状を呈する。約10cmほど焼土層があった。伴出遺物、剝片2点。

2号焼土 形態は、アーメバー状を呈する。約5cmほど焼土が堆積していた。伴出遺物なし。

3号焼土 形態は、アーメバー状を呈する。約5cmほど焼土層があった。伴出遺物なし。

#### ビット群 (Fig. 26, PL. 5-1)

7組の東側で、ビット群が1ヶ所発見された。調査の結果、建物跡等のビットか否か判断がつかなかった。ここでは、ビット群の平面図とビットの深度（単位はcm）を示すにとどめたい。

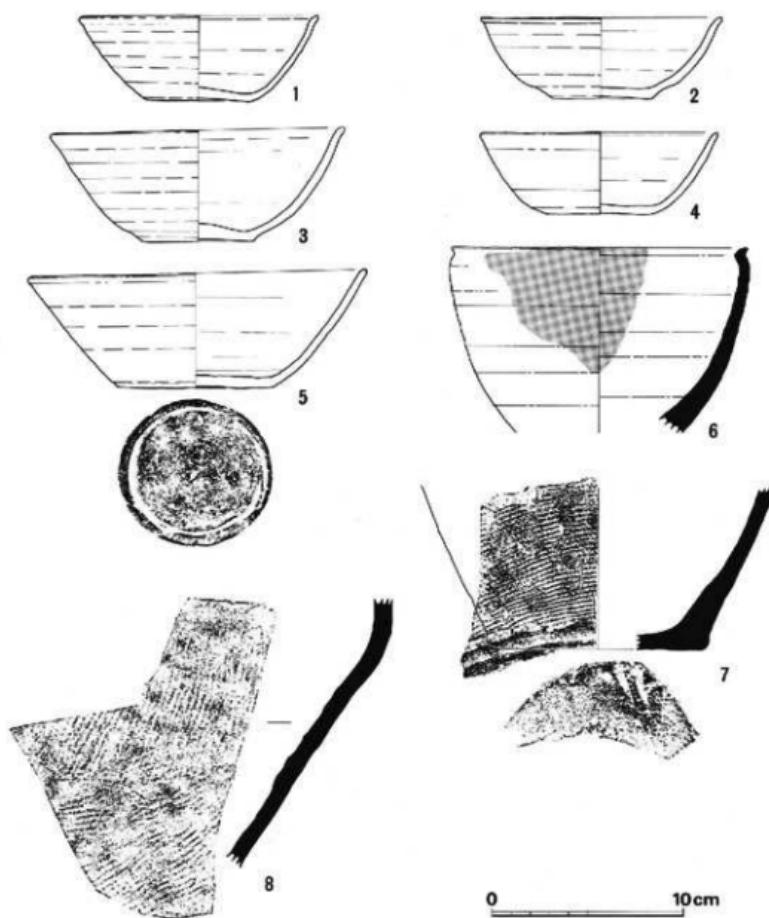


Fig. 25 1号住居址出土土器 ( $S = \frac{1}{3}$ )

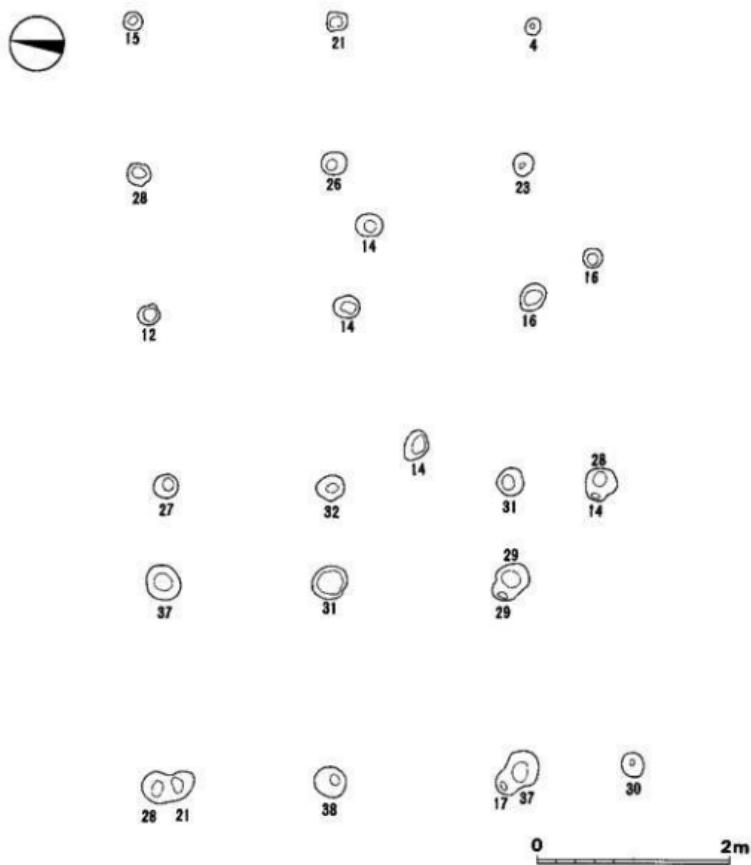
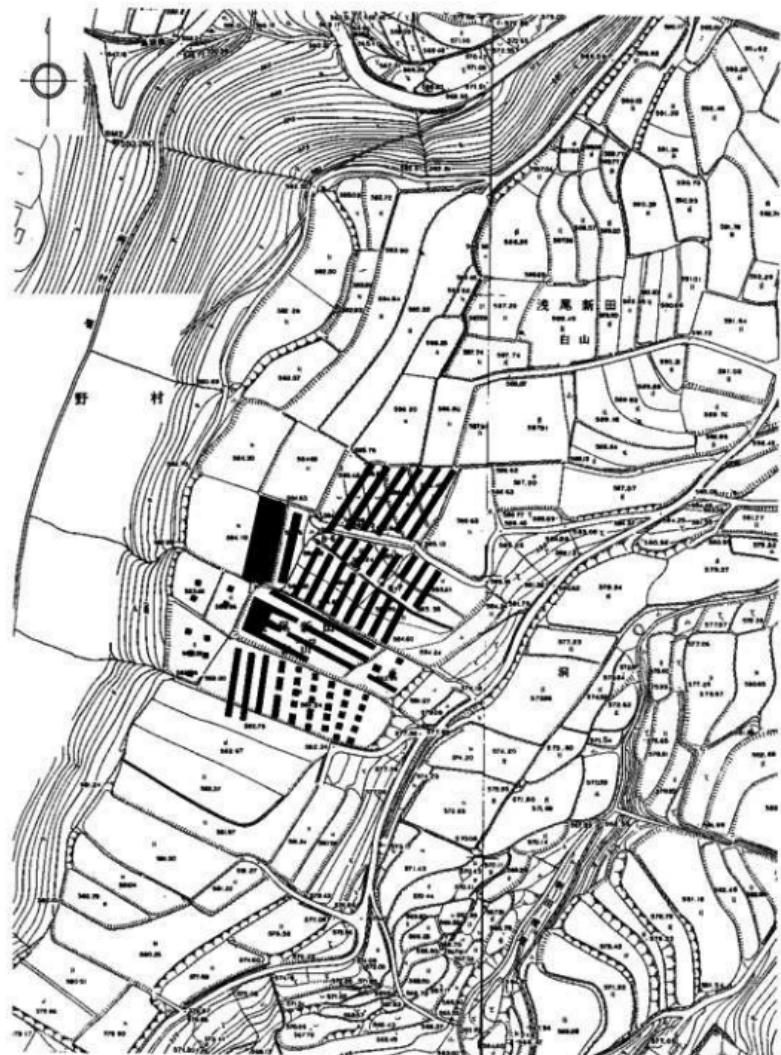


Fig.26 ピット群 ( $S = \lambda_6$ ) (数字は、深さを示す)

## 第4章 白山I遺跡の調査





<b>■ 調査範囲</b>	X B - 6 - 23388.056	Y - 5019.460
	B - 7 - 23403.083	- 4997.005

0                            100m

Fig. 27 白山 I 遺跡調査範囲 ( $1/2000$ ) (X, Yは第Ⅸ系の座標値)

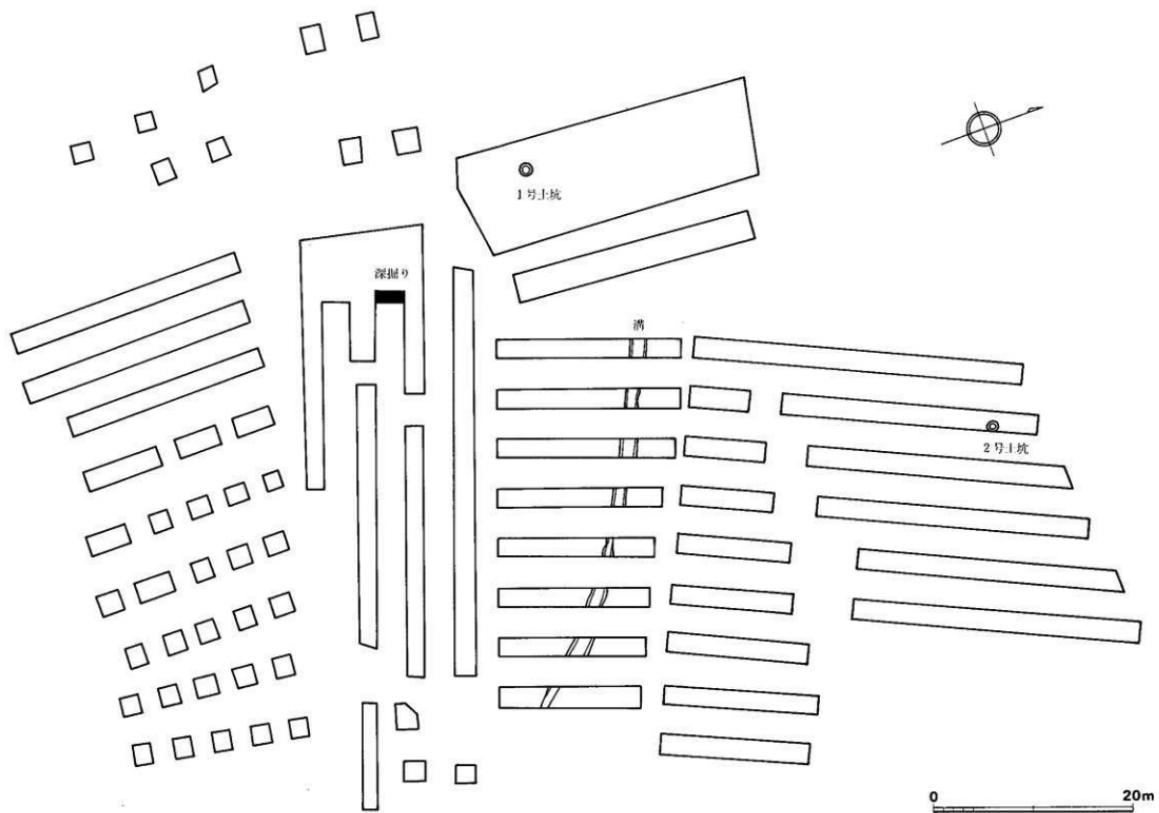


Fig.28 白山 I 遺跡 遺構配置図 ( $S = \lambda_{60}$ )

## 第1節 調査の概要

第1項 層序 (Fig. 29, PL. 20)。

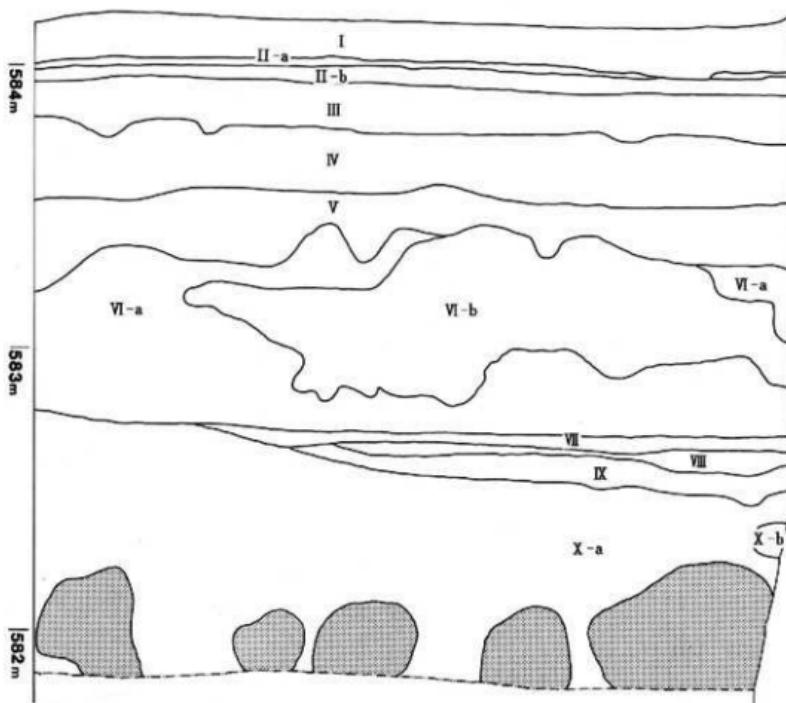


Fig. 29 層序 ( $S = \frac{1}{6}$ )

I層 田の耕作土

II-a層 田の床土

II-b層 田の床土

III層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 上の方に黒色粒子を多く含む

IV層 褐色土 (7.5YR4/3) 粘性あり

V層 褐色土 (7.5YR4/6) 粘性あり

VI-a層 褐色土 (10YR4/6) 粘性あり

VI-b層 aと同じで、明黄褐色土(10YR6/8)を大ブロック状に含む

VII層 灰色(5Y5/1)粘土層

VIII層 褐色土(10YR4/6)粘性大

IX層 明褐色土(7.5YR5/8)と暗赤褐色土(2.5YR3/4)が縞模様になっている。鉄分が酸化したものであろうか。

X-a層 褐色土(7.5YR4/6)粘性あり。黒色スコリアを多く含む。下には、大きな礫および黄褐色(10YR5/8)<X-b層>のバミスのようなものをブロックで含む。

## 第2項 遺構

1号土坑 (Fig. 30, PL. 19) 長径約115cm、短径約105cmではば円形を呈する。深さは、約25cmである。土器片1点出土。時期不明。

2号土坑 (Fig. 30, PL. 19) 長径約75cm、短径約65cmでだ円形を呈する。深さは、約15cmである。時期不明。

上記の他に溝が1本発見された (Fig. 28)が、現在の田の水路のようなものと判断した。

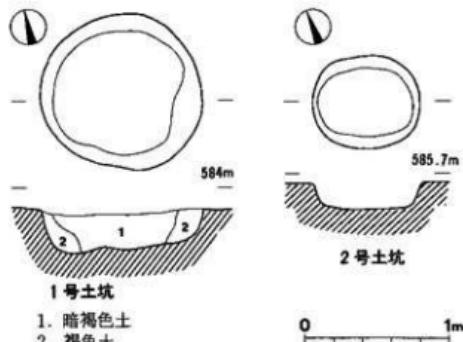


Fig. 30 土坑

## 第3項 遺物 (PL. 20)

主な出土遺物は、写真図版PL. 20に示してある。土器は、縄文土器、土師器が出土したが、小破片なので割愛した。以下、簡単な説明を加えよう(番号は、写真図版の番号と一致する)。

1. 石鎧 石質: 黒曜石。重さ0.4g。
2. 石鎧 石質: チャート。重さ2.1g。頭部、脚部を欠損する。
3. 石核 石質: 黒曜石。重さ5.5g。
4. 打製石斧 石質: 不明。重さ68g。
5. 打製石斧 石質: ホルンフェルス。重さ80g。
6. 打製石斧 石質: 不明。重さ90g。
7. 打製石斧 石質: 不明。重さ70g。
8. 打製石斧 石質: 不明。重さ90g。
9. 打製石斧 石質: ホルンフェルス。重さ100g。
10. 打製石斧 石質: ホルンフェルス。重さ86g。
11. 石皿 石質: 安山岩。重さ1,295g。現存部には、凹はない。

## 参考文献

- 神奈川考古同人会 1980 織文時代中期後半の諸問題 「土器資料集成図集」
- 岡谷市教育委員会 1986 「梨久保遺跡」
- 山梨県教育委員会 1986 「駿遊堂Ⅰ」
- 山梨県教育委員会 1987 「駿遊堂Ⅱ」
- 山梨県教育委員会 1987 「駿遊堂Ⅲ」
- 明野村教育委員会 1987 「普門寺遺跡」
- 明野村教育委員会 1988 「北原遺跡」
- 富士見町教育委員会 1978 「曾利」
- セミナー・ノフ・抄訳 田中琢 1968 「石器の用途と使用痕」『考古学研究』第14巻 第4号

## 付編1 白山I遺跡の砂粒組成・重鉱物組成

会田 信行

### 1.はじめに

白山I遺跡は塩川によって形成された段丘（小池平面）上に位置している。小池平面は八ヶ岳団体研究グループ（1988）によって命名されたものである。須玉町小池平から明野村浅尾新田、一本松付近にかけて分布し、現河床からの比高は60mある。小池平面は層厚1～2mの小池平段丘疊層とその上位のローム層からなる。小池平段丘疊層は八ヶ岳及び茅ヶ岳起源の火山岩類、基盤の花崗岩、頁岩からなり、また小池平面が形成されたのは八ヶ岳山麓の層序で、中部佐久ローム層降灰期である。すなわち御岳Pm-I Aを挟在するローム層に整合に覆われるとされている。今回、疊層上位の上層（層厚3m以上のローム層）について、その砂粒組成と重鉱物組成を求めたので、その結果を報告する。

### 2. 土層の層序

Fig. 31に本遺跡の土層断面図を示す。これは発掘担当者が作成したものであり、色調等からI層からX層までに区分される。III層以下がローム層である。

褐色のローム層中に、灰色砂質粘土層（VII層）、縄状の褐鐵鉱（IX層、二次的に形成されたもの）を挟在している。X層は下底付近に疊や岩塊のブロックを含み、それらはクサリ疊化している。

### 3. 採取試料と分析方法

分析用試料としてIII～X層から計25個を採取した（Fig. 31）。

採取した試料は水洗いし、粘土分を除去した後、残渣を100メッシュ（0.15mm）と200メッシュ（0.074mm）のフルイを用いて篩分する。このうち0.074～0.15mmの砂粒をカナダバルサムを用いて、スライドガラスに封入する。

スライドガラスに封入した砂粒を、偏光顕微鏡を用いて砂粒1粒ずつ鑑定する。その際メカニカルステージを用いて、等間隔線上の砂粒のみを対象とした。数える量は統計学上、200粒以上になるまで数えた。なお偏光顕微鏡はニコン製のOPTIPHOT-POLを使用し、主に10×10倍で検鏡した。

### 4. 分析結果

Fig. 32に分析結果を示した。以下に項目ごとに特徴を述べる。

#### (1) 砂粒組成

砂粒の鑑定数は試料により差はあるが、黄色の風化粒子を除いてNo. 9の1718個（最多）からNo. 23の382個（最小）であった。数えた砂粒を重鉱物、軽鉱物（無色鉱物）、火山ガラス、岩片に分け、百分率（粒数%）で示した。

No. 22~25 : X層中の礫である。重鉱物と軽鉱物はほぼ同量含む。図には示していないが、No. 24には軽鉱物ほとんど含まれない。クサレ礫化の過程で消失したものと思われる。

No. 21 : X層中の軽石である。重鉱物38%、軽鉱物60%であり、火山ガラスは認められない。

No. 18~20 : X層のローム層である。岩片を14~17%含む。No. 20と18、19とでは重鉱物量が異なる。

No. 11~13 : VII~IX層の非ローム層である。重鉱物23~30%、軽鉱物62~70%、岩片6~7%、火山ガラス1%未満である。

その他の資料：III~VI層のローム層である。軽鉱物は67%前後ではば一定の割合で含まれるが、重鉱物は14~40%と差がある。上位の層準ほど重鉱物量は、少ない。その分岩片量が増える傾向が認められる。火山ガラスは、全資料で認められるものの、特にNo. 1~5に多い(2.4~6.8%)。この部分の火山ガラスはHタイプ(吉川、1976)に属するものが多い。No. 14、15でもやや多く含まれるが(2%)、Hタイプを含めさまざまな形態の火山ガラスからなる。

## (2) 重鉱物組成

砂粒組成で示した重鉱物について、カンラン石、シソ輝石、普通輝石、角閃石、不透明鉱物、黒雲母、その他(不明鉱物を含む)の7種に分け、百分率(粒数%)を求めた。

No. 22~25 : 23、25はともに褐色の角閃石(25は23より暗色である)を多量に含むのが特徴である。22、24はシソ輝石、普通輝石を多量に含む。

No. 21 : 褐色の角閃石、シソ輝石、不透明鉱物がほぼ同量含まれる。

No. 18~20 : 輝石類を多含する(37.2%)。18、19は輝石類10~15%であるが不透明鉱物を57%前後含む。このように不透明鉱物を多量に含む傾向はVI層以上のローム層でも同様である。

No. 11~13 : 角閃石を多量に含む(51~65%)。

その他の試料：不透明鉱物が48~83%含まれ最もも多い。次に角閃石が14~26%、輝石類が3~18%含まれる。輝石類は上位ほど含む割合が高い。カンラン石はIで4.8%含まれるほかは1%未満である。

黒雲母は試料処理の過程でローム層全体に含まれることがわかったが、特にVIb層に最も多く認められる(7~8%)。その他の鉱物としては、判別不能なもののほか、ジルコンが4、5、6、8、9、10、13、16の試料で少量認められる。

## 5 考 察

### (1) ローム層の起源について

確実な火山灰対比は、なされていないが、御岳 Pm-I A 以上の層準のローム層であると仮定してローム層の起源を考えてみよう。

本遺跡のローム層の特徴は、角閃石を多く含むことである。また、全体に黒雲母も含まれる。ほぼ同層準の八ヶ岳山麓のローム層は、角閃石をわずかに含むもののシソ輝石、普通輝石を多く含むのが特徴であり、本遺跡のローム層とは鉱物組成上で対比はできない。すなはち八ヶ岳起源ではないといえる。

八ヶ岳山麓のローム層中には、黒雲母・角閃石を含有する細粒火山灰や軽石層が認められている(木村ほか、1988)。これらは御岳ないしは立山起源の可能性があるという。今後の検討課題としたい。

#### (2) 火山ガラスについて

III～V層には高率で火山ガラスが認められる。形態からHタイプであるが、いわゆるバブルウオール型に相当するものである。これらの火山ガラスは約2万年前に降灰した始良・丹沢火山灰(AT)起源の可能性が高いと考えられる。

### 文 献

木村純一・八ヶ岳鉱物グループ 1988 八ヶ岳火山周辺の火山灰層—広瀬ローム層と佐久ローム層の重鉱物組成ー。地団研専報34「八ヶ岳山麓の第四系」、P111～117。

吉川周作 1976 大阪層群の火山灰層について。地質学雑誌82巻8号、P479～515。

八ヶ岳団体研究グループ 1988 八ヶ岳山麓の上部更新統。地団研専報34「八ヶ岳山麓の第四系」P91～109。

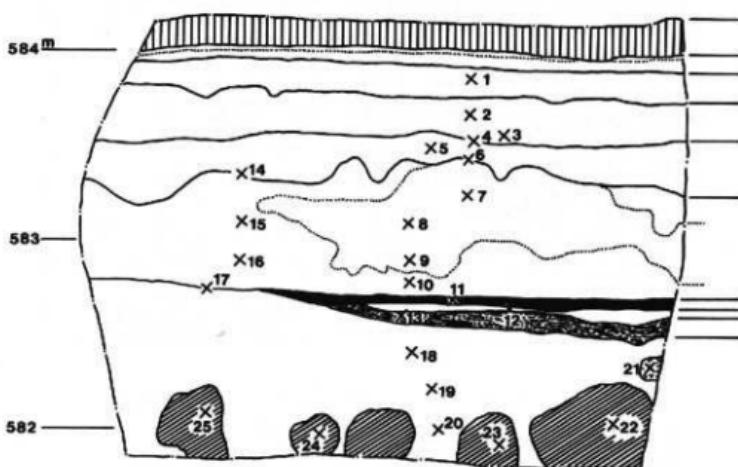


Fig. 31 分析試料採取位置

註：Fig. 32の凡例

a : 重鉱物、b : 軽鉱物、c : 火山ガラス、d : 岩片、e : カンラン石、f : シソ輝石、  
g : 普通輝石、h : 角閃石、i : 不透明鉱物、j : 雲母、k : その他

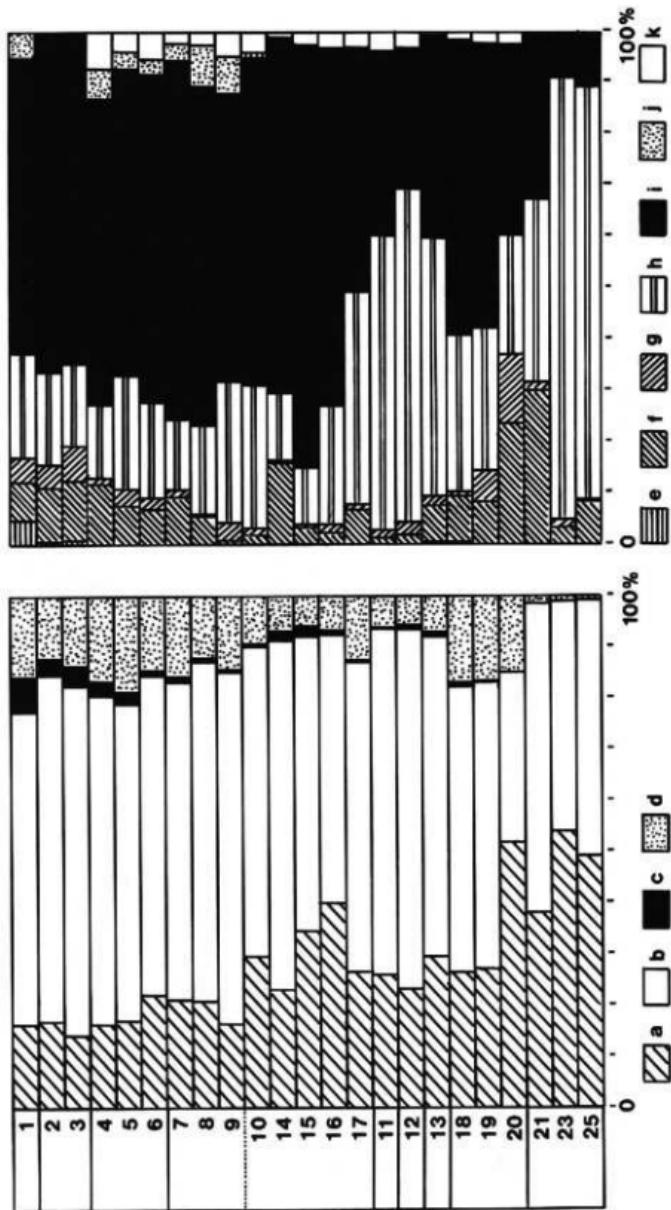


Fig. 32 分析試料砂粒組成と重鉱物組成



Fig. 33 付録2 明野村内遺跡分布図

明野村遺跡地名表

	遺 跡 名	所 在 地	時 代	備 考
1	清 水 端	上 手	绳 文	1985年調査
2	平林・平林南	上 手	绳 文	
3	高台・中谷井	上 手	绳 文	
4	桑 森	上 手	绳 文	
5	村 之 内	上 手	绳 文	
6	下 反 保	上 手	绳 文	
7	屋 敷 添	上 手	绳 文・平安	
8	駒 飼 場	上 手	绳 文	
9	十 二 所	上 手	绳 文	
10	机 腰	小 笠 原	绳 文	
11	中 原	三 之 藏	绳 文	
12	机	小 笠 原	绳 文	
13	普 門 寺	上 手	平 安	1985年調査
14	諏 訪 原	上 神 取	绳 文	1988年調査
15	中 村 道 祖 神	浅 尾	中 世	
16	吉 良 痛	浅 尾	绳 文	
17	竹 内	浅 尾		
18	俵 石	浅 尾	绳 文	
19	水 庄 南 西	浅 尾	绳 文	
20	水 庄 北	浅 尾	绳 文	
21	水 痛	浅 尾	绳 文	
22	水 痛 南	浅 尾	绳 文	
23	寺 前	上 神 取	绳 文	
24	白 山 II	浅 尾 新田	绳 文	
25	經 塚	浅 尾	绳 文	
26	富 士 塚	浅 尾	绳 文	
27	梅 の 木	浅 尾	绳 文	
28	金 山	上 手	绳 文	
29	北 原	浅 尾	绳 文・平安	1987年調査
30	薬 師 堂	浅 尾	绳 文・平安	1988年調査

Tab. 7 明野村遺跡地名表

	遺 路 名	所 在 地	時 代	備 考
31	白 山 I	浅 尾 新 田	繩 文	1988年調査
32	永 井 原	上 手	繩 文	
33	穴 塚 古 墳	三 之 藏	古 墓	円 墳
34	小 森	三 之 藏	繩 文・平 安	
35	千 野 木 I	上 手	繩 文	
36	平 林 南 II	上 手	繩 文	
37	躑 石 II	浅 尾	繩 文	
38	宮 ノ 後	浅 尾	平 安	
39	池 の 下	浅 尾	平 安	
40	千 野 木 II	上 手	繩 文	
41	星 代 氏 屋 敷 路	上 神 取	中 世	土 堆
42	小 笠 原 氏 屋 敷 路	小 笠 原	中 世	
43	三 井 氏 屋 敷 路	上 手	中 世	

# 写 真 図 版





遺跡の位置 (1: 踏石、2: 薬師堂、3: 白山 I)



躑石遺跡遠景



土坑



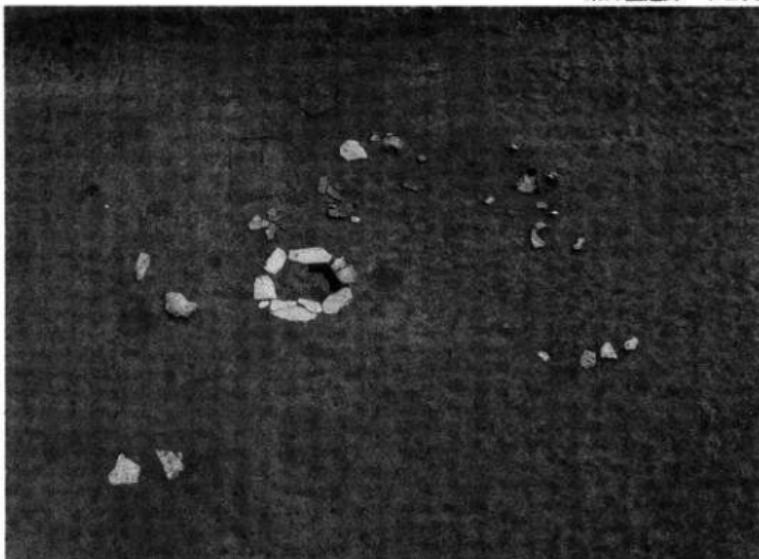
調査風景



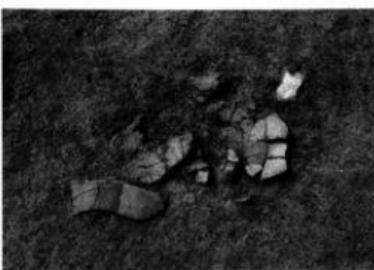
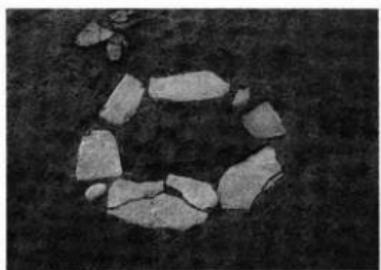
薬師堂遺跡遠景（矢印）



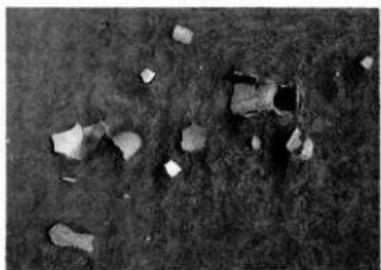
調査風景



石組と周辺の土器



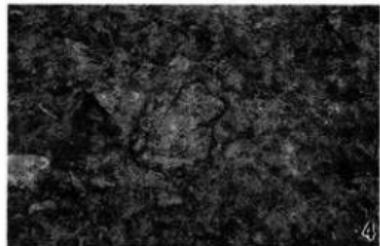
石組



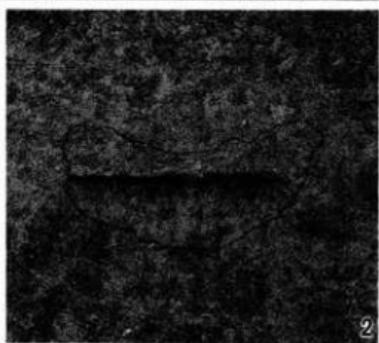
石組周辺土器出土状況



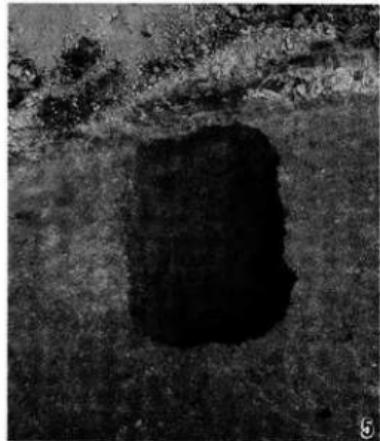
1



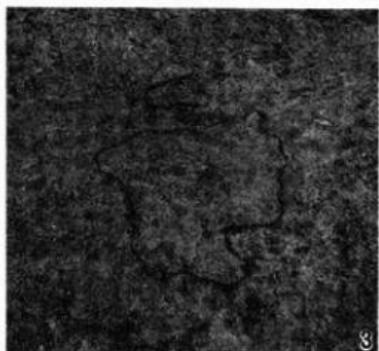
4



2



5



3

1：ピット群、2：1号焼土、3：2号焼土、4：3号焼土、5：1号土坑



土器 (Fig.15—58) 出土狀況



土器 (Fig.15—57) 出土狀況



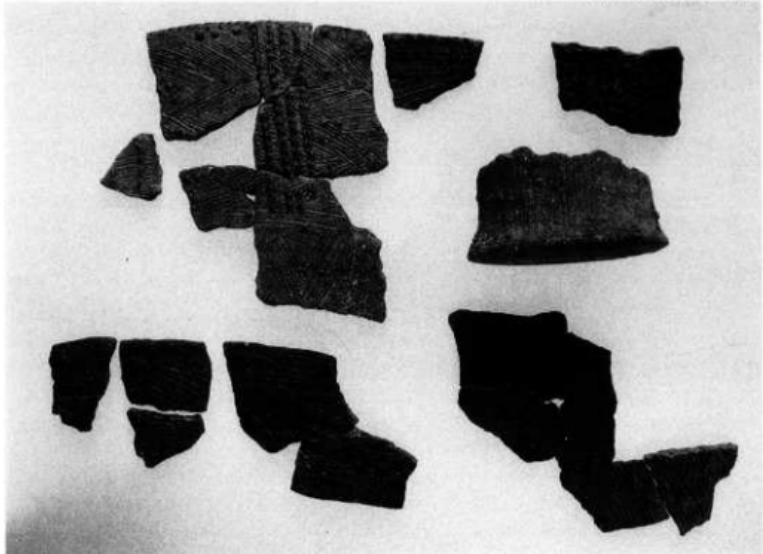
土器 (Fig. 11—27) 出土狀況



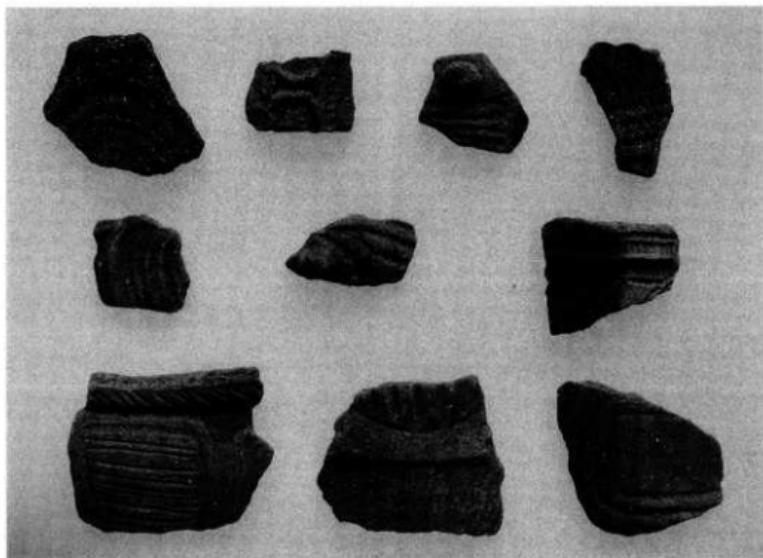
土器 (Fig. 14) 出土狀況



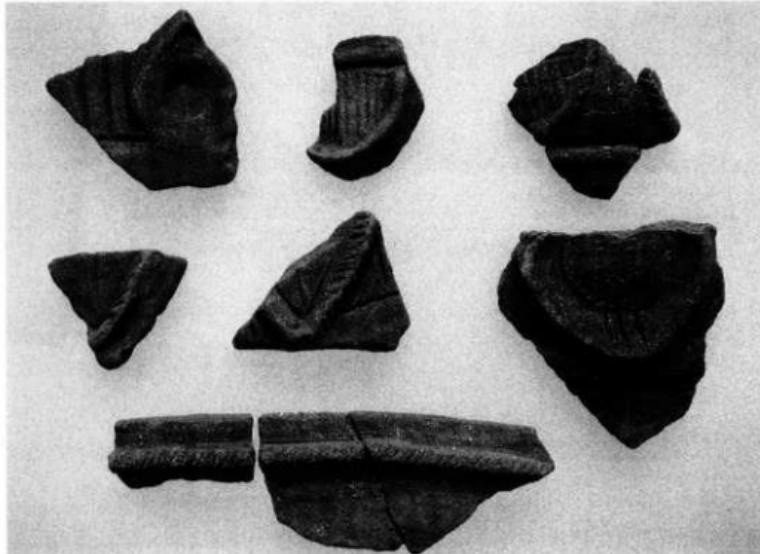
調查風景



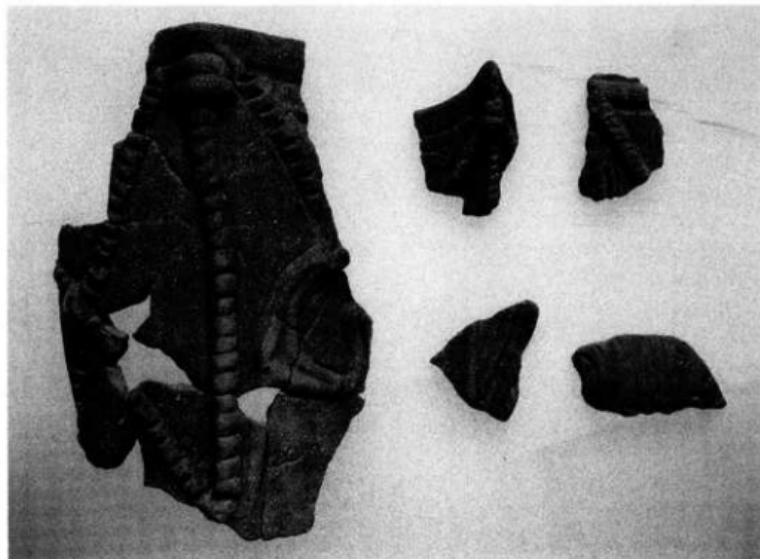
縄文土器(1)



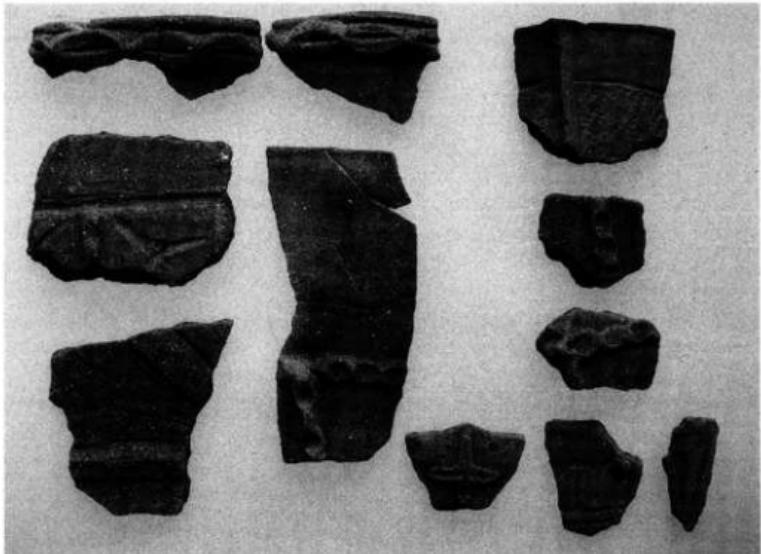
縄文土器(2)



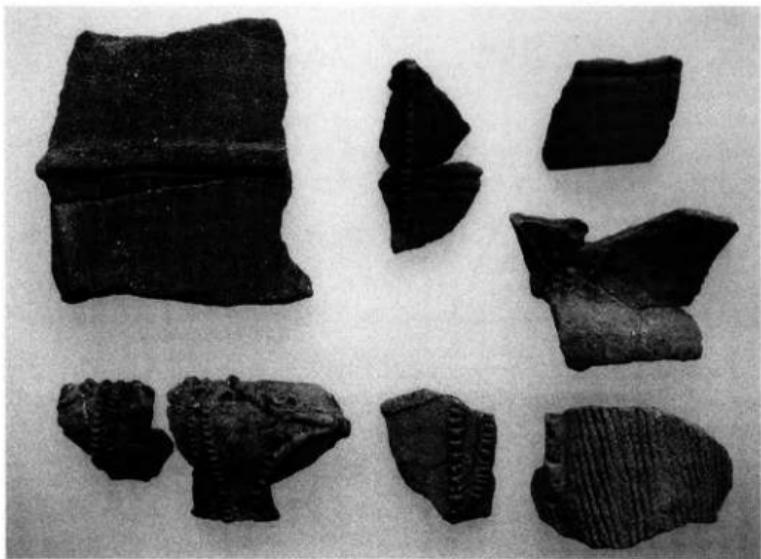
調文土器(3)



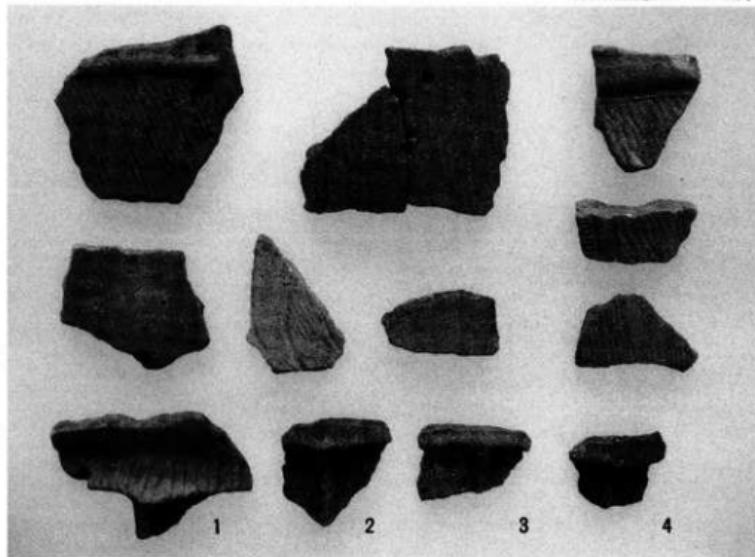
調文土器(4)



縄文土器(5)



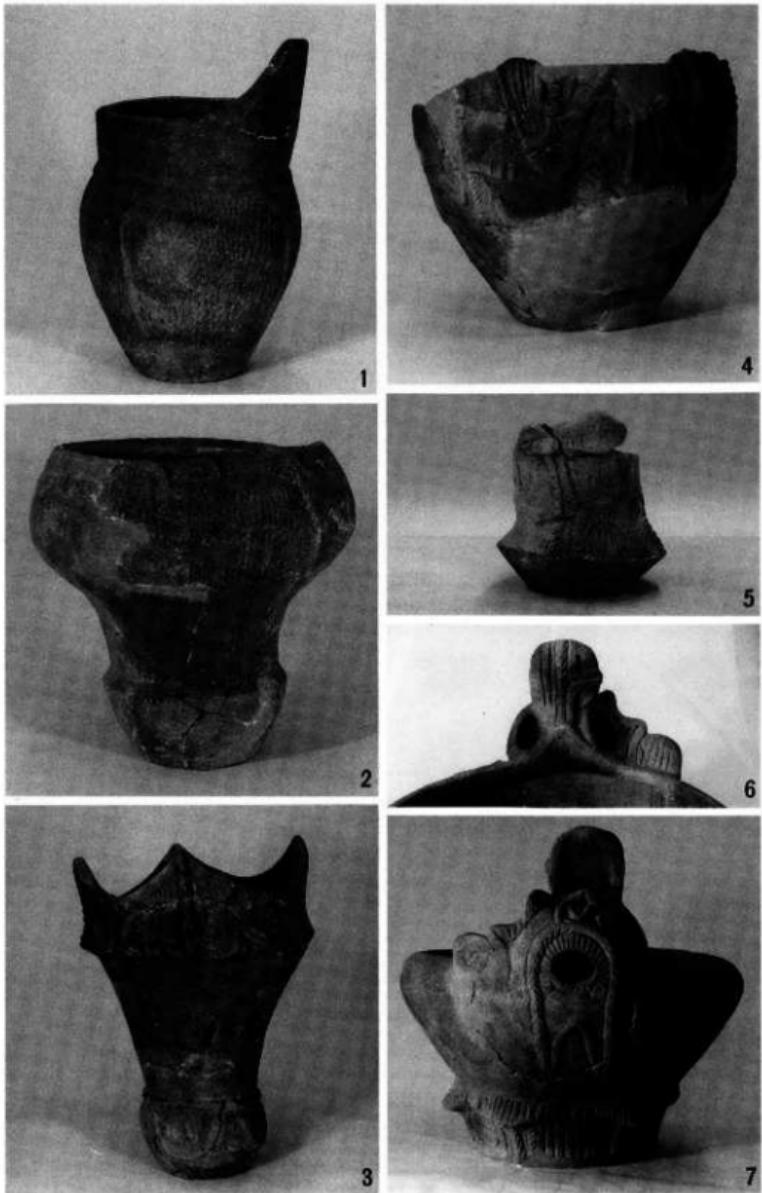
縄文土器(6)



縄文土器(7)



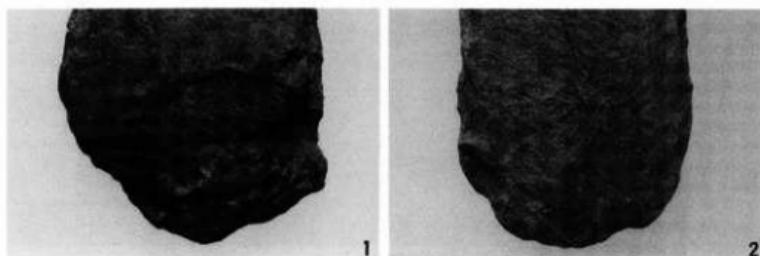
縄文土器(8)



縄文土器(9)



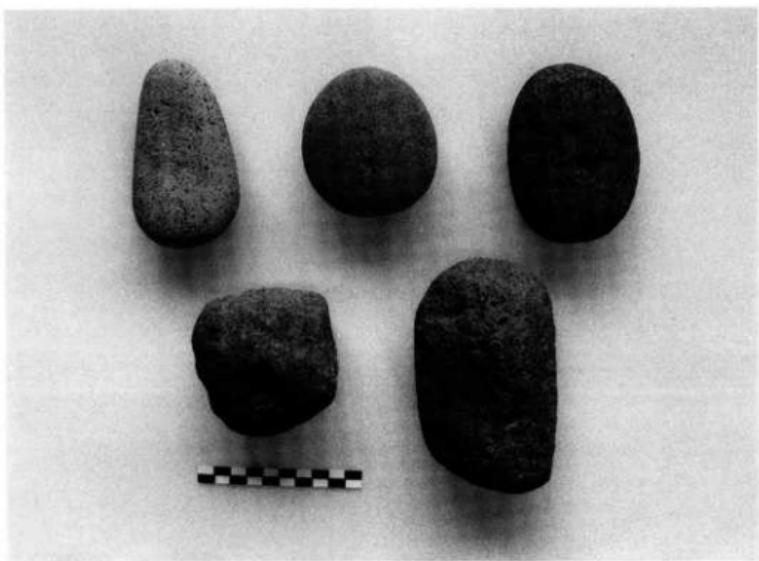
把手



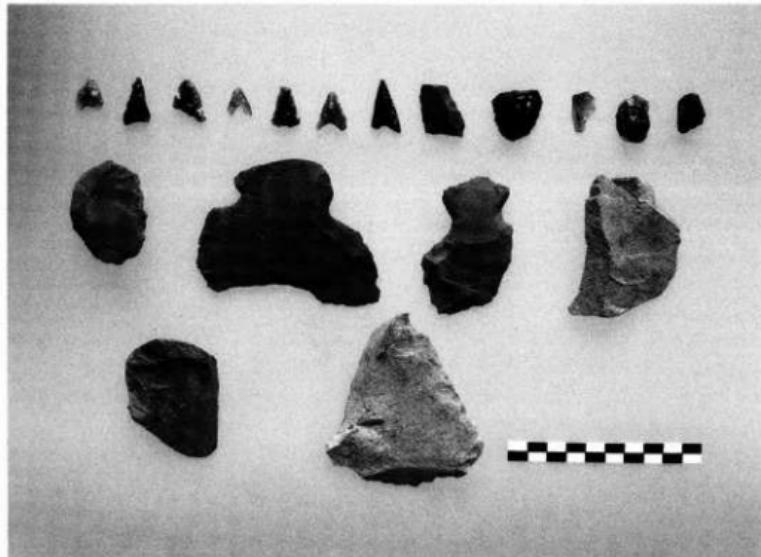
打製石斧 刀部使用痕



石器(1)



石器(2)



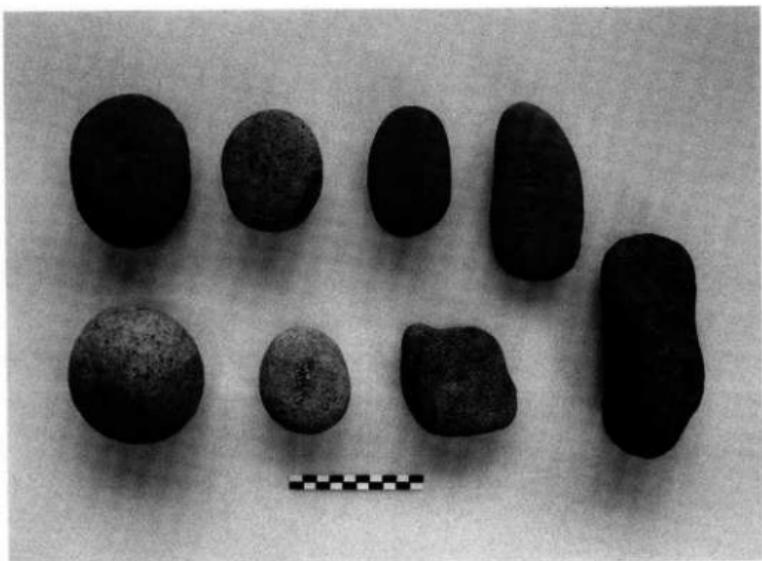
石器(3)



石器(4)



石器(5)



石器(6)



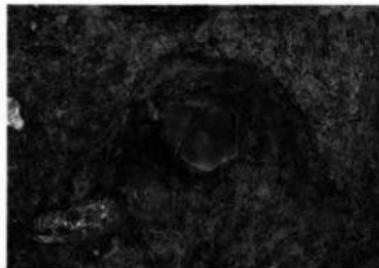
1号住居址



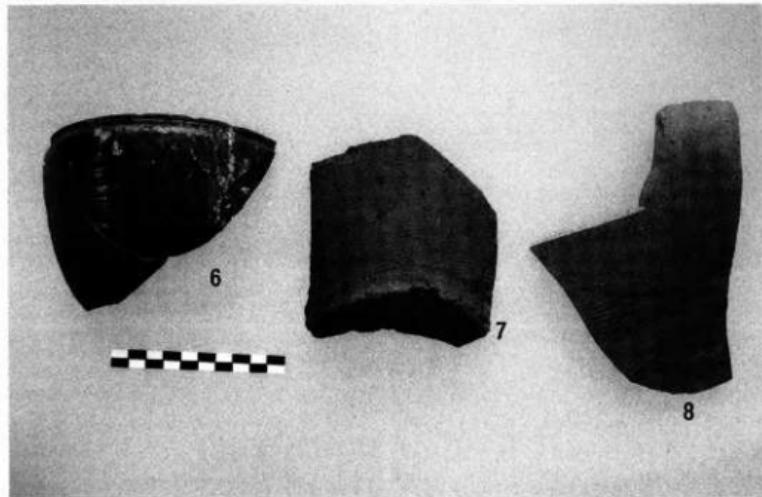
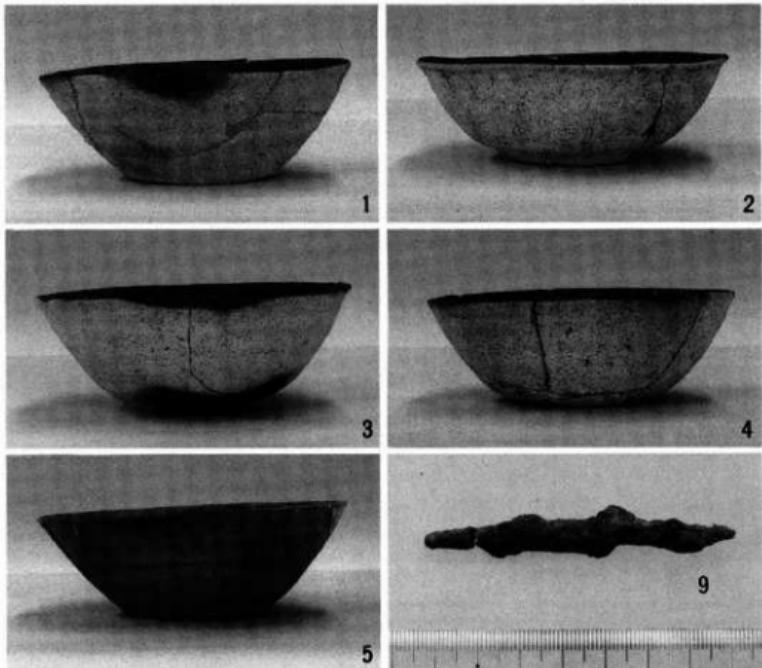
1号住居址カマド(新)



1号住居址ピット内土器



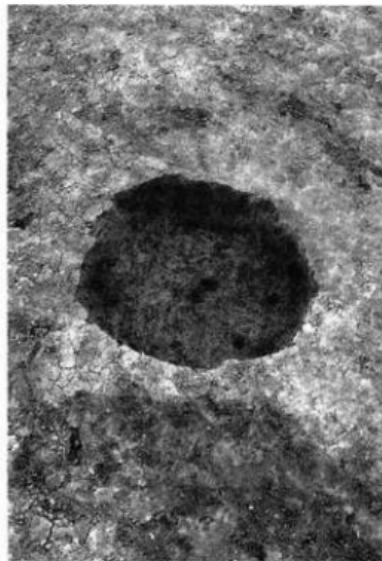
1号住居址土器出土状況



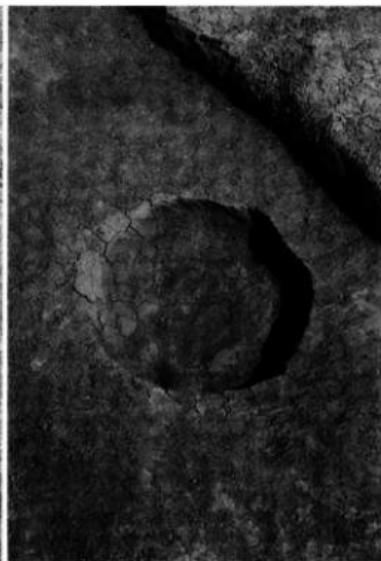
1号住居址出土遺物



白山 I 遺跡遠景 (矢印)



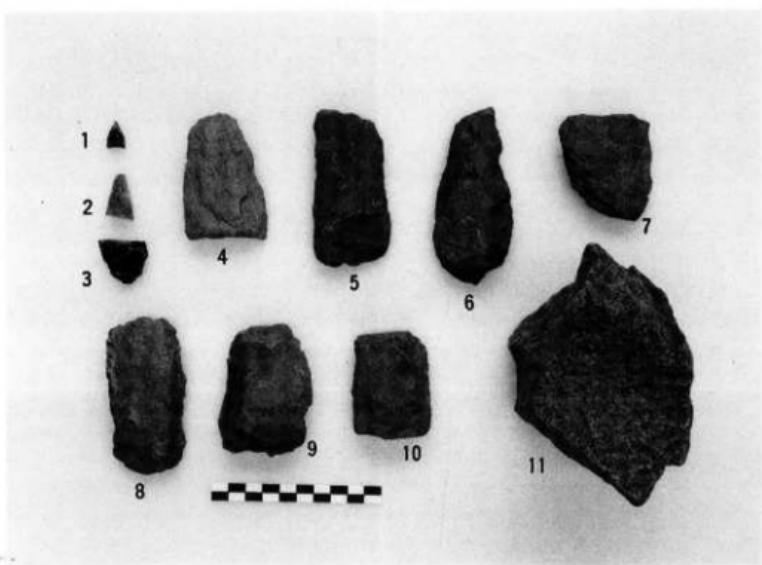
1号土坑



2号土坑



深掘りセクション



石器

---

明野村文化財調査報告 4

## 踊石遺跡・薬師堂遺跡・白山I遺跡

1989.3.31発行

発 行 明野村教育委員会

印 刷 株式会社 サンニチ印刷

---

